

	G05 - 03
群 教 セ	平25.249集
	小・音楽

鑑賞領域において、感じ取ったことを要素と結び付けて表すことができる児童の育成 —「音楽鑑賞ガイド」の活用を通して—

長期研修員 関 佳子

キーワード 【音楽一小 鑑賞 [共通事項] 音楽鑑賞ガイド 言語活動】

I 主題設定の理由

学習指導要領において、「言語活動の充実」は、各教科等を貫く重要な改善の視点となっている。音楽科では、表現及び鑑賞のすべての活動において、共通に指導する内容として〔共通事項〕が示された。鑑賞領域では、感じ取ったことを言葉で表すなどの活動を位置付け、楽曲や演奏の楽しさに気付いたり、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き理解したりする能力が高まるよう改善が図られた。また、「はばたく群馬の指導プラン」で「感じたことを体の動きや言葉などで表しながら、味わって聴くこと」が学年に応じて示された。

これまでの授業では、音楽活動の中心が技能習得となり、一人一人が感性を豊かに働かせた主体的な学習活動とつながらないことが多かった。その結果、思いを表現に変えていくための語彙が少なかったり、感じ取ったことの理由が、楽曲と関連付けられていなかったりする状態が多く見られた。よって、〔共通事項〕の内容を示す音楽の要素を活かし、自分なりの価値観をもって主体的に楽曲を聴くようにするためにには、各学年に応じた手立てを工夫し、要素を根拠とする学習活動を積極的に盛り込む必要がある。なお、本研究で用いる「要素」とは、〔共通事項〕の「音楽を形づくっている要素」を示すものであり、児童に向けては「音楽のもと」として示す。

平成24年度の「ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査」では、音楽の雰囲気と要素とのかかわり合いに気を付けて聴くことに課題があることが明らかとなった。教師の指導に対する意識と、児童の習得状況に大きな開きがあり、指導が効果的に働いていないことを示している。研究協力校においても、曲全体のイメージを感じ取ることはできるが、感じ取ったことの理由を、音楽を形づくっている要素と結び付け、言葉で説明することはできないなど、「味わって聴く」段階までには至っていない。

以上のことから、味わって聴く力を育てるためには、曲を聴いて、自分の考えをもつことの積み重ねをする必要がある。そのためには、要素を理解し、働きについて音楽体験を通して知覚し、それのかかわり合いによって醸し出される曲想（その楽曲固有の気分や雰囲気、味わいなど）を感じ取ることが大切である。また、音楽を全体的に味わう能力を身に付けることも大切であるため、要素を用いて自分の考えを表す活動を繰り返し、要素の使い方に慣れることも必要である。群馬県総合教育センターの先行研究でも、〔共通事項〕に着目させる活動については、6年間を見通した計画を立てていく必要があることが示されている。

本研究は、段階を踏まえた学習内容の実践授業を基とした、鑑賞指導の手引き書「音楽鑑賞ガイド」の作成と活用を通し、味わって聴くために不可欠な、感じ取ったことを要素と結び付けて表す力を培うためのものである。曲想を感覚的にとらえた言葉と、その理由となる要素にかかわる言葉を結び付けた「音楽ことば」を作成し、それを基にして、自分なりの価値観をもって考えを表す。これらの活動を低学年から繰り返し、積み重ねていくことで、要素を知覚し、感じ取ったことを要素と結び付けて表すことができる児童を育成できると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

感じ取ったことを要素と結び付けて表すことができる児童の育成のために、段階を踏まえた学習内容の実践授業を基とした鑑賞指導の手引き書「音楽鑑賞ガイド」を活用することの有効性を明らかにする。

III 研究の見通し

1 曲想を感じ的にとらえる

「つかむ」段階において、要素が特徴的な曲から、感じ取ったことを「～な感じ」に続く短い言葉で表すことにより、曲想を感じ的にとらえることができるであろう。

2 「音楽ことば」で説明する

「広げる」段階において、感じ取ったことと要素を結び付ける活動を繰り返すことにより、感じ取った理由を要素から見付け出し「音楽ことば」で説明することができるであろう。

3 自分なりの価値観をもって考えを表す

「深める」段階において、「音楽ことば」を用いて、曲の紹介文を作成したり、体を動かしたりする活動を繰り返すことにより、感じ取ったことを要素と結び付けて、自分なりの価値観をもって考えを表すことができるであろう。

IV 研究内容の概要

本研究は、鑑賞領域において、感じ取ったことを要素と結び付けて表すことができる児童の育成を目指したものである。要素と結び付けて表すためには、〔共通事項〕の内容を示す音楽の要素を低学年から正しく認識し、使うことに慣れる必要がある。そこで、段階を踏まえた学習内容の実践授業を基に、要素が特徴的な曲の提示や指導例、常時活動などを示した鑑賞指導の手引き書「音楽鑑賞ガイド」を作成し、活用することとした。実践授業では、「つかむ」段階で、ガイドに示した曲リストから、要素が特徴的で、言語化しやすい曲を提示し、感覺的にとらえた短い言葉「気持ちカード」で表した。「広げる」段階で、感覺的にとらえた言葉を、要素にかかわる言葉「音楽のもとカード」で説明した「音楽ことば」を作った。「深める」段階で、「音楽ことば」を基に、2年生では、体の動きで表す活動を通し、「動き」と「音楽から聴き取った要素にかかわること」を結び付け、自分の考えを発表した。そして、交流することで、友達の感じ方に気付いたり、自分の考え方を広げたりすることにつなげた。6年生では、紹介文を作成し、発表、交流してから、もう一度聴くことで、自分なりの価値観を深めていった。また、常時活動として、短時間で要素を意識できるような活動を取り入れたり、児童から出た言葉を「気持ちカード」「音楽のもとカード」として常時掲示し、ヒントとして使ったりすることを通して、語彙を増やしていく。さらに、鑑賞だけではなく、器楽や歌唱の際にも、要素を意識した発問や活動を取り入れた。これらの活動を繰り返し、積み重ねていくことで、感じ取ったことを要素と結び付けて、自分なりの価値観をもって考えを表す力を培うことができると考えた。

V 研究のまとめ

1 成果

- 三つの段階に沿って授業を進めたことで、一人一人の曲を感じ的にとらえた言葉や、要素にかかわる言葉が増えた。そして、それらを基に自分なりの価値観を加えながら、自分の考えを要素と結び付けて表すことができるようになった。
- 常時活動を取り入れたり、児童から出た言葉を掲示したりすることで、歌唱や器楽の際にも曲を感じ的にとらえた言葉や、要素にかかわる言葉を使うことができるようになった。

2 課題

- 「音楽鑑賞ガイド」をより活用しやすくするために、曲リストや指導例などを適宜付け加え、工夫、改善をしていく必要がある。

VI 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 感じ取ったことを要素と結び付けて表すこととは

〔共通事項〕の内容を示す「要素」は、知識・理解にとどまらず、常に体験としてかかわらせてることで、感じ方を深め、表現を豊かにするための言葉として使えるようになる。「要素」は、音楽体験と感じ取ったことをつなぐ重要な手掛かりとなるのである。また、音楽体験を通して感じ取ったことや学んだことを「言葉」で表すことによって、音楽に対する自分の思いや考えをより明確にしたり、整理したりできるようになる。さらに、音楽体験を言葉で伝え合うことを通して、自分にはない友達の感じ方や考え方のよさに気付いたり、新たな思いを広げたりして、自分の思いを他者と共有できる思いへと変えていくことができる。これらのことから、一人一人が感じ取ったことを、音楽を形づくっている要素の言葉とかかわせることで、感じ方を共有し、要素や仕組みの働きに対する理解を深めていくことができるようになり、楽曲の特徴や演奏のよさを理解することにつなげていくことができる。

(2) 感じ取ったことを要素と結び付けて表す力が付いた児童とは

学年に応じて、感覚的にとらえた言葉や要素にかかわる言葉を増やしていき、要素を正しく理解することで、自分の感じたことを的確に表現することができ、徐々に分かりやすく相手に伝えることができるようになる。そして、自分なりの価値観をもって考えを表したり、主体的に聴いたりすることができる姿へとつながる。また、鑑賞だけではなく、器楽や歌唱などにおいても、主体的に活動することにつながる。

2 「音楽鑑賞ガイド」について

(1) ガイドの概要

自分なりの価値観をもつて、自分の考えを表すためには、段階に沿った、要素を根拠とする学習内容が効果的であると考えた。そのため、「つかむ」「広げる」「深める」の三つの段階を踏ました学習内容を分かりやすく示した、音楽鑑賞の手引き書「音楽鑑賞ガイド」の作成をした。

要素をとらえたり、要素を使って自分の考えを示したりするためには、それらを意識した活動の積み重ねが必要だが、系統立った指導が行われていない現状がある。また、ねらいに向かって学習を展開させるためには、教材の選択や、教材との出会い方の工夫が重要である。「音楽鑑賞ガイド」とは、段階を踏ました学習内容の実践授業を基に、要素が特徴的な曲の提示や指導例、常時活動などを示した鑑賞指導の手引き書である(図1)。「つかむ」段階では、曲想を感覚的にとらえるために、要素が特徴的で、速度や、強弱などの要素がはっきりしていて聴き取りやすいものや、教科書に載っている曲を基に、関連した曲、感覚的にも親しみやすい曲、学年に応じた長さの曲などを意識した選定をした。そして、低、中、高学年、いろいろな地域の音楽に分け、曲リストとして載せた。「広げる」段階では、感覚的にとらえたことを、より明確な、根拠のあるものにするために、感じ取った理由を要素から見付け出す「音楽ことば」の作成の仕方を示した。学年の発達や学習状況に応じて、要素を分かりやすい言葉で示す。



図1 音楽鑑賞ガイドの内容構成

ていない現状がある。また、ねらいに向かって学習を展開させるためには、教材の選択や、教材との出会い方の工夫が重要である。「音楽鑑賞ガイド」とは、段階を踏ました学習内容の実践授業を基に、要素が特徴的な曲の提示や指導例、常時活動などを示した鑑賞指導の手引き書である(図1)。「つかむ」段階では、曲想を感覚的にとらえるために、要素が特徴的で、速度や、強弱などの要素がはっきりしていて聴き取りやすいものや、教科書に載っている曲を基に、関連した曲、感覚的にも親しみやすい曲、学年に応じた長さの曲などを意識した選定をした。そして、低、中、高学年、いろいろな地域の音楽に分け、曲リストとして載せた。「広げる」段階では、感覚的にとらえたことを、より明確な、根拠のあるものにするために、感じ取った理由を要素から見付け出す「音楽ことば」の作成の仕方を示した。学年の発達や学習状況に応じて、要素を分かりやすい言葉で示す。

し、児童が理解した上でそれらの言葉を用い、音楽にかかわる言葉の語彙を増やしていく活動から、感じ取った理由を要素から見付け出した「音楽ことば」へつなげられるようにした。「深める」段階では、「音楽ことば」を基に、自分なりの価値観をもって考えを表すための、体の動きで表す、絵で表す、紹介文で表す活動を示した。低学年においては、言葉で書き表さなくても、楽曲の気分に合わせて体を動かすことで、要素や仕組みを感じ取ることにもつながる。また、絵で表す活動では、なぜその絵を描いたのかや色を塗ったのかを聞くことで、要素とかかわらせて考えることにつなげることができる。中学年、高学年においては、曲の紹介文とすることで、相手意識をもち、自分なりの価値観を分かりやすく伝えるために、要素を根拠とした活動へつながる。これらの段階を踏むことで、感じ取ったことを要素と結び付けて、自分なりの価値観をもち、考えを表す力が身に付くようにした。指導例では、低、中、高学年ごとに、これらの三つの段階に沿った授業の流れ、曲の聴き方や発問例なども示した。また、資料編では、「要素について」「常時活動」「掲示用資料」を示した。要素については、文章だけではなく、絵も用いて説明することで、要素をとらえやすくなった。常時活動は、短い時間であっても、繰り返し活動することで、要素をとらえることに慣れるとともに、ほかの活動でも学びを活かすことができるようとした。具体的には、授業の導入で、短時間で聴ける曲や、要素が特徴的で要素の意味を理解しやすい曲、体を動かすことに適した曲などを示した。また、必要なところを掲示したり、ワークシートとして使用したりできるような資料も示した。

(2) 「音楽ことば」作成の過程

「感じ取ったこと」とは、曲の雰囲気やイメージしたことを「～な感じ」に続く短い言葉で表したものであり、「気持ちカード」として示す。また、曲から聴き取った要素にかかわる言葉を「音楽のもとカード」として示す。「音楽ことば」とは、感じ取った「気持ちカード」の理由を、「音楽のもとカード」から見付け出したものである(図2)。

「感じ取ったこと」を「要素」と結び付けて表すためには、曲を聴いて「感じ取ったこと」を言葉で表すための語彙を増やしていく活動を繰り返す必要がある。そのため、授業で児童から出た「～な感じ」につながる言葉を、「気持ちカード」として掲示しておき、語彙が少ない児童も、その中から近いものを選んだり、参考にしたりしながら、自分の言葉で表すことができるようになる。その活動を繰り返すことで、語彙を増やし、自分の気持ちを自分の言葉で表すことができるようになる。同様に、〔共通事項〕で示されている「要素」を理解し、「要素」にかかわる語彙を増やしていく必要もあるため、「要素」にかかわる言葉を「音楽のもとカード」として提示しておき、「気持ちカード」と同じ方法で、「要素」を表す言葉を増やしていく。言葉を増やすために、表現教材、鑑賞教材を問わず、全ての音楽活動の中で要素を意識した発言を促すなどの活動を、繰り返し、積み重ねていく。そして、「～と感じ取ったのは、(要素)が、～だから」という形で、感じ取ったこと「気持ちカード」の理由を、要素「音楽のもと」を使い、説明する。これを「音楽ことば」とする。さらに、「音楽ことば」を用いて、自分の考えを書き表したり、説明したりすることで、考えが明確になり、また、友達と交流することで、自分にはなかった視点の聴き方、感じ方を知ることができる。そして、自分なりの価値観をもって自分の考えを表すことができる。

この「音楽ことば」を中心とし、三つの段階に沿って学習を進めていくことで、自分なりの価値観をもって自分の考えを表すことができると考えた。そして、これらの活動を繰り返し、積み重ね

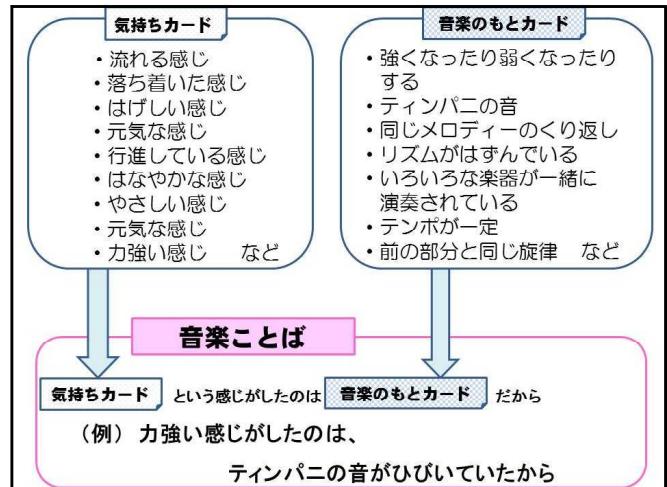


図2 「気持ちカード」「音楽のもとカード」「音楽ことば」の関連

ていくことで、「感じ取ったこと」を「要素」と結び付けて表すことができるようになると考え、研究内容を図3のように構想した。

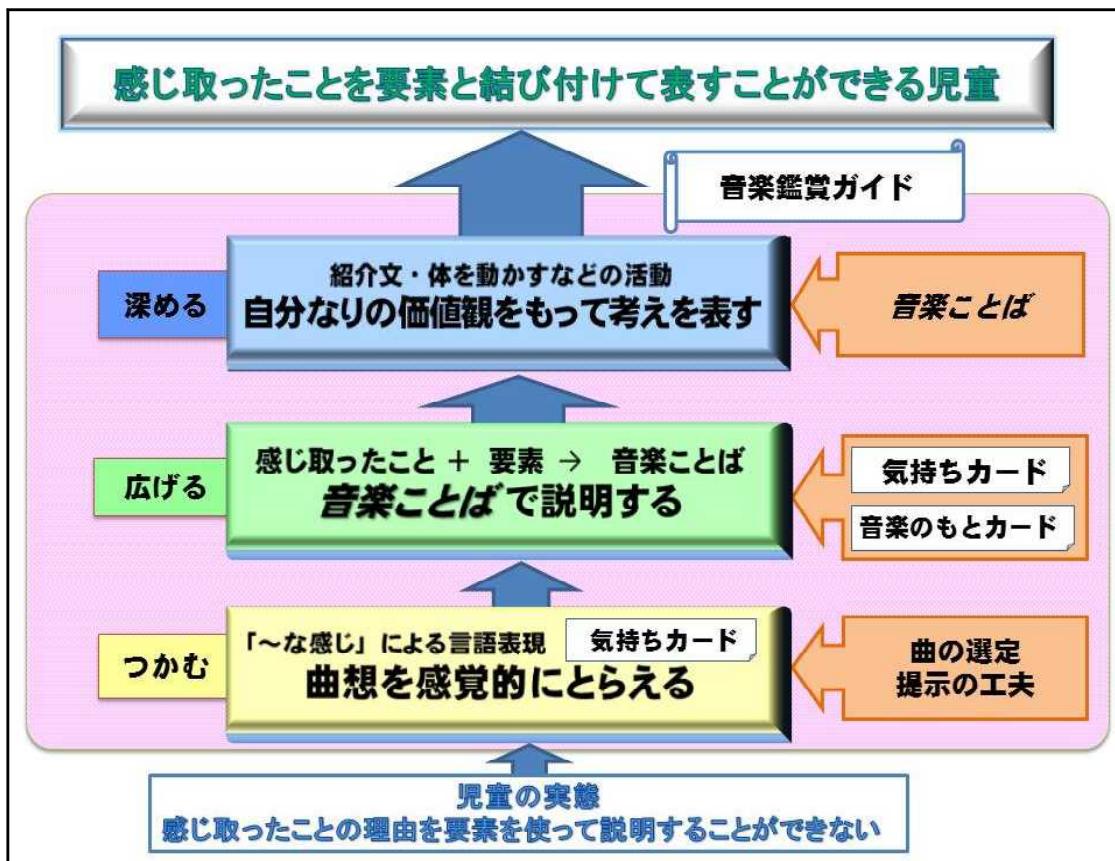


図3 研究構想図

3 先行研究とのつながり

群馬県総合教育センターの先行研究における、鑑賞分野の課題として、要素に着目させる活動については、6年間の積み重ねとなるような指導計画と工夫、改善が必要であることが示されていた。また、キーワードなどの掲示のような音楽室の環境作りや、要素を容易に聴き取ることができるような曲の提示についても挙げられていた。このようなことから、段階を踏まえた学習内容の実践授業を基として、低、中、高学年ごとに、要素が特徴的な曲の提示と指導例、語彙を増やすための「気持ちカード」と「音楽のもとカード」の掲示などを「音楽鑑賞ガイド」に示し、活用することで、感じ取ったことと要素を結び付けて表すことができる児童の育成を図りたいと考えた。

4 研究協力校における課題

事前調査として、『歓喜』の鑑賞文を書いたところ、曲の雰囲気を「～な感じ」と感覚的にとらえることはできていたが、「きれい」という言葉を使う児童が多かった。また、要素にかかわる言葉を鑑賞文の中で使うことができた児童が62%であったが、感じ取ったことと要素を結び付けたものが文の中に含まれていた児童の割合は、14%であった。これらのことから、感覚的にとらえることはできるが、表すための語彙が少ないと、また、要素にかかわる言葉の語彙も少ないと分かった。その結果として、感じ取ったことだけに偏った鑑賞文になってしまい、なぜそう感じ取ったのかの理由である要素と結び付けることができていないという課題が挙げられた。また、教師へのアンケートでは、文章を書くことが苦手な児童や、体を動かす活動をはずかしいと感じてしまう児童に対する評価の仕方や、どのように曲を聴かせたらよいか、などが課題として挙げられた。

VII 実践の計画と方法

1 実践授業[1] (「音楽鑑賞ガイド」 II 授業の進め方に沿った指導例 1 低学年より)

(1) 実践計画

対象	研究協力校 小学校第2学年 66名
期間	平成25年10月9日～10月18日
題材名	ようすをおもいうかべよう
題材の目標	楽曲の気分を感じ取りながら、想像豊かに聴くことができる。

(2) 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	曲を聴いて、楽曲の気分に合うように3枚の場面絵を並べ替え、思い浮かんだ様子を「～な感じ」に続く言葉で表すことは、曲想を感覚的にとらえるために有効であったか。	○ワークシート ○発言
見通し2	曲を聴いて、曲に合った動きを考えることは、「～だから～の動きをしました」という要素から理由を見付け出した「音楽ことば」で説明するために有効であったか。	○発言 ○体の動き ○グループワークシートへの記入
見通し3	「～だから～の動きをしました」という「音楽ことば」を基に、楽曲の気分の変化に合わせて、体を動かすことは、感じ取ったことを要素と結び付けて表すために有効であったか。	○発言 ○体の動き

(3) 抽出児童

A	楽曲の気分を感じ取ったり、場面を想像したりすることはできるが、言葉で表すことが難しい。要素の特徴的な曲を聞くことの積み重ねや、友達の感じ取ったこと、場面の絵を基に考える活動を通して、言葉で表せるようにしたい。
B	楽曲の気分を感じ取り、そこから想像した場面を、言葉で説明することができる。「なぜそう感じたのか」と聞くことにより、感じ取ったことの理由と「音楽のもと」が結び付けられるようにしたい。

(4) 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①『人形のゆめと目ざめ』の全体にわたる気分を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。	①強弱や速さなどの要素を聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。 ②楽曲の気分や音楽を形づくっている要素のかかわり合いから、想像した人形の様子を、言葉や体の動きで表すことができる。

(5) 指導計画

過程	時	学習活動	研究上の手立て
つかむ・広げる	1	○『人形のゆめと目ざめ』を聴き、全体の構成と、楽曲の気分をつかむ。 ○なぜ、「～な感じ」と感じ取ったのかの理由を考える。 ○楽曲の気分に合う動きをグループで考える。	○『人形のゆめと目ざめ』の全体の構成をつかむために、楽曲の気分に合わせて体を動かしながら聴き、三つの絵がどの場面なのかを並べ替える活動を取り入れる。 ○楽曲の気分が要素とかかわっていることに気付くために、「～な感じ」の理由を強弱や速度の変化に着目して考え、感じ取った理由を要素から見付けた「音楽ことば」で説明できるようにする。 ○楽曲の気分に合う動きを要素から考えるために、「～だから～の動き」となるようにする。
		○グループごとに、場面の様子に合った動きを考え発表をする。	○どの要素に着目した動きなのかが分かるように「～だから～の動きをしました」というように、工夫した点を伝えてから発表するように示す。また、発表を見る時には、動きの根拠を要素から見付けられるようにするため、工夫点を

		<p>○『人形のゆめと目ざめ』を教科書の挿絵を見ながら聴き、自分のイメージと比較する。</p>	<p>基に、音楽と動きが合っているのかを見るようにする。</p> <p>○自分のイメージと比較するために、教科書の挿絵を見ながらもう一度聴き、新たに気付いたことを発表できるようにする。</p>
--	--	---	--

2 実践授業[2] 「音楽鑑賞ガイド」 II 授業の進め方に沿った指導例 3 高学年より)

(1) 実践計画

対象	研究協力校 小学校第6学年 90名
期間	平成25年10月2日～10月21日
題材名	曲想を味わおう
題材の目標	曲想やその変化を感じ取りながら、思いや意図をもって、想像豊かに聴くことができる。

(2) 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	宇宙に関する曲や『木星』を聴いて、どのような様子が思い浮かんだかを「～な感じ」に続く言葉で表すことは、曲を感覚的にとらえるために、有効であったか。	○発言 ○ワークシートへの記述内容
見通し2	要素を理解し、要素にかかわる言葉を多くもつことは、感じ取ったことの理由を要素から見付け出し「音楽ことば」で説明するため有効であったか。	○発言 ○ワークシートへの記述内容
見通し3	感じ取ったことと要素を結び付けた「音楽ことば」を使って曲の紹介文を作成したことは、感じ取ったことを要素と結び付けて自分の考えを表すために有効であったか。	○発言 ○ワークシートへの記述内容 ○事後アンケート

(3) 抽出児童

C	自分の感じ取ったことを言葉で表すことができるが、感じ取った理由を言うことができない。 要素を聴き取りやすい曲を通して、要素を理解し、感じ取った理由と要素を結び付け「音楽ことば」を増やすようにしたい。
D	自分の感じ取ったことを言葉で表すことができ、それぞれの要素も理解しているが、感じ取った理由を要素から見付けて説明することができない。「音楽ことば」を増やす活動を繰り返すことにより、「音楽ことば」を増やし、これを用いて、説明できるようにしたい。

(4) 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①楽曲全体にわたる曲想と、その変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。	①楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。 ②旋律、速度、強弱、音色などの変化する要素を聴き取り、感じ取ったことと要素を結び付けた「音楽ことば」で説明することができる。
②音楽を特徴付けている旋律、速度、強弱、音色などのかかわり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。	③曲想とその変化などの特徴や音楽を形づくっている要素のかかわり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文で表し、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。

(5) 指導計画

過程	時	学習活動	研究上の手立て
つかむ	1	○宇宙にかかわる曲を聴く。 ○『木星』の曲の構成と、全体	○宇宙へのイメージをもつようになるため、宇宙にかかわる曲を聴き、『木星』へとつなげられるようにする。 ○全体の構成と曲想をとらえるために、中間部、次に全体を聴き、「～な感じ」につながる言葉を使って、短い言葉で表

		の感じをつかむ。	すようする。
広げる	2	○感じ取ったことの理由を要素である「音楽のもと」から見付け、「音楽ことば」で説明する。	○「音楽ことば」で説明するために必要な「音楽のもと」を正しくとらえられるよう確認し、感じ取ったことの理由を「音楽のもと」から見付ける「音楽ことば」の作成方法を説明する。
深める	3	○私のおすすめとして『木星』の紹介文を作り、説明したり、紹介したりする。	○自分なりの価値観をもち、考えを表すために、「音楽ことば」を基に『木星』の紹介文を作り、発表後に、もう一度『木星』を聴き、新たに気付いたことを発表できるようにする。

VIII 実践の結果と考察

「音楽鑑賞ガイド」の指導例を基に、2年生の「ようすをおもいうかべよう」の題材において、『人形のゆめと目ざめ』の教材を用いて実践授業[1]を行い、6年生の「曲想を味わおう」の題材において、『木星』の教材を用いて実践授業[2]を行った。低学年では、「体の動きで表す」ことで、高学年では、「紹介文で表す」ことで、感じ取ったことの理由を要素から見付け、自分の考えを表す活動を取り入れることの有効性を異学年で検証した。

1 実践授業[1] 2年生

(1) 曲想を感覚的にとらえる

① 結果

『人形のゆめと目ざめ』を聴き、楽曲の気分の変化から、三つの場面に分けられることを確認することができた。それから、それぞれの場面の様子を表した3枚の絵を配付し、曲の様子に合わせて並べ替えた（図4）。「子守歌」の場面は、ほとんどの児童が分かったが、「人形のゆめ」と「人形のおどり」の場面では、どちらなのか迷っている児童もいた。なぜ、その絵がその場面に合うと思ったのかの理由を発表しながら、全体で、絵の順序の確認をした。意見が分かれた場面では、二つの場面を再度聴いた。「人形の目ざめ」の急に音が強くなる場面を中心に確認したところ、全員が曲の様子に合った順序に並べることができた。それから、場面ごとに、絵の様子や、掲示してある「気持ちカード」をヒントにしながら、「～な感じ」と表す活動を行った。最初の場面では、「ねむくなる感じ」「ゆったりとした感じ」「おだやかな感じ」「やさしい感じ」、真ん中の場面では、「わくわくする感じ」「たのしそうな感じ」「びっくりした感じ」、最後の場面では、「おどっている感じ」「とびはねている感じ」「ウキウキする感じ」など、自分の言葉で表すことができた。

② 考察

何もないところから、「～な感じ」と表すと、想像することが広がりすぎてしまうため、人形のお話であることを聞き、三つの場面から成り立っていることをとらえた上で、3枚の絵を並べ替える活動をした。楽曲の気分に合うように並べ替えるということは、絵と聴き取ったことを結び付ける必要があるため、「～な感じ」と感覚的にとらえることにつながったと考える。全体で、絵の順番を考える方法もあったが、全員に三つの場面の絵を配付したことで、聴いている段階での、児童の思考の様子を見取ることができた。また、絵を動かすこともできるので、友達の意見を聞き、再度曲を聞くことで、迷った部分があった場合にも、音楽を聴いて音で確認することができた。絵と楽曲の気分を結び付けるためには、なぜその場面が合うのかの理由を音楽の中から見付ける必要があるため、さらに深く聴くことができたのではないかと考える。三つの場面を「～な感じ」と表す活動は、絵の様子と「気持ちカード」の例示をしたことで、思い浮かんだ様子を短い言葉で「～な感じ」と表すことができた。場面の絵を並べ替え、全体の音楽のイメージを感覚的にとらえてから、さらに場面ごとに聴くことで、場面の絵に描かれていることだけではなく、音から新たに「～な感



図4 絵を並べ替えている様子

じ」と表す言葉も増やすことができた。これらのことから、場面の絵を並べ替え、「～な感じ」と表したことは、曲想（低学年表記では楽曲の気分）を感じ的にとらえるために有効であると考える。

(2) 「音楽ことば」で説明をする

① 結果

強弱や速度にかかわる「音楽のもと」カードを提示し、例を挙げてから、三つの場面ごとに分かれて、さらに繰り返し聴いた。どのような音が聴こえたのかと、どのような動きが合うのかを、グループワークシートに記入した。どのような音が聴こえていたかについては、「少し速い」「少し強い」「だんだん強くなってきた」「強くなったり弱くなったりした」「音が長い」のように、要素にかかわることについて聴き取り、記入することができた。また、どのような動きが合うのかについては、「手をゆらす」「ジャンプをする」「横に波みたいに動く」などがあった。「～だから、～の動きをしました」という形に

なるよう、ワークシートに記入し（表1）、聴き取ったことと動きが結び付くように、楽曲の気分に合った動きを考えた（図5）。一つの場面の中でも、楽曲の気分が変わる部分では、動きも変えるように考えたり、一人ずつ別の動きを考えたりするなど、グループで試行錯誤しながら、活動をしていた。

② 考察

実践授業に向けて、前の題材から常時活動として、『さんぽ』を伴奏の雰囲気に合わせて、歌いながら歩く活動を取り入れていた。聴いた音から、「強くて低い音だから、ぞうのさんぽ」「高くて、速いから、ねずみのさんぽ」というように、「～だから～な動き」と動きと音を結び付ける活動を行っていた。また、実践前の事前調査では、強弱の変化を聴き取ることができたが、言葉で表す時に、「音が強い」と表すところを「音が高い」となってしまい、強弱と音域のとらえ方が混ざってしまう児童もいた。そこで、常時活動で、要素を正しくとらえられるように強弱と音域の高低についてピアノの音で確認し、言葉と音が結び付くよう意識をした。こうしたことを繰り返すことが、要素と動きを結び付けて考えるために有効に働いたと思われる。実践では、三つの場面でどのような音が聴こえたかを、要素にかかわる言葉で表すことができた（表2）。「強い」「弱い」「おそい」「はやい」のような言葉だけではなく、表現する言葉が増え、より具体的な言葉を使って表すことができるようになった。また、曲の中においても、常時活動で身に付けた力に加え、リズムにかかわることに気付くことができた児童もいた。グループは3～4人の少人数とし、三つの場面ごとに活動の場所を設定し、その部分だけを繰り返し聴いた。グループで話し合いながら活動し、友達の意見を聞くことで、新たに聴き取ることも増え、疑問の点は、繰り返し聴くことでどのような音であったかを確認し、また、新たな発見をすることもできたのではないかと思われる。曲に合った動きにするには、楽曲の気分を感じ取り、要素を聴き取った上で、動きを決めることになる（表3）。どのような音であったかを繰り返し聴き、常時活動をヒントと

表1 グループワークシートへの記入の様子

	どんな音がきこえたかな	どんなうごきがあうかな
はじめ	音がだんだんよくなる とてもよくなる	手をだんだん大きくふる だんだんねむくなる
なか	なめらか きゅうにつよくなる	ゆれるうごき 手を音に合わせて大きくあげる
終わり	つよくなったりよくなったりする	つよいところは、大きくジャンプして、 よわいところは、小さくしゃがむ



図5 体の動きを考えている様子

表2 抽出児童 聴き取ったこと

A	はやい きゅうに強くなったり 弱くなったりする
B	はねている きゅうに強くなる ちょっとゆっくり たかい音

表3 抽出児童のいるグループ

A	つよいところは、つよくジャンプをします。
B	やさしいところはしづかにうごきます。強いところははげしくうごきます。

することで、要素から動きを考えることができたのではないかと思われる。自分の聴き取った急に強くなったところを基に、動きながらグループでどのような動きが合うかの意見を言ったり、友達が気付かなかったところを曲を聴いてみんなで確認したりしてから、曲の様子に合う動きを試すことができた。これらのことから、曲を聴いて、曲に合った動きを考えることは、「～だから～の動きをしました」という「音楽ことば」で動きを説明するために有効であったと考える。

(3) 自分なりの価値観をもって考えを表す

① 結果

グループごとに、音と動きを結び付けた「～だから～の動きをしました」という「音楽ことば」を基に、動きを考え、曲に合わせて練習をし、発表をした。グループの練習では、曲に合わせて、いろいろな動きをしている様子が見られたが、全体の前での発表となると、はずかしくなってしまい、練習のように動けなくなってしまうグループが多かった。また、考えたり、動きを練習したりする時間が少なかったので、あまり多くの動きを考えることはできなかつた。それでも、「ゆれている感じがしたので、横にゆれました」「だんだん眠くなつてくるので、小さくなりました」(図6)「楽しそうな感じだったのでジャンプをしました。音が強い所は大きくジャンプをして、弱い所は小さくジャンプをしました」というように「～だから～の動きをしました」と、工夫した点を伝えてから発表するようにした。また、発表を見る時には工夫点に着目し、動きと楽曲の気分が合っているのかどうかも見て、意見を述べた。



図6 だんだん眠くなる部分の動き

② 考察

グループで、動きを考えている段階では、試行錯誤しながら様々な動きを楽しそうにしていたが、全員の前での発表となると、練習のような動きにはならなかつた。これは、グループ活動や、前に出ての発表にあまり慣れていないことが原因と考えられる。また、評価を発表の段階としたが、グループ活動の時の方が、様々な動きができていたので、聴こえた音から動きを考えている時点での評価の方がよかつたと思われる。グループで活動することにより、ただ自分が動きたいように動くだけではなく、音楽を聴き取り、そこから、なぜその動きにするのかを、話し合うことができた。また、どのように動いたらよいかが分からぬ児童も、友達の意見を聞いたり、グループで活動したりすることで、どのような音の時には、どのような動きが考えられるのか、周りからヒントをもらうこともできたと思われる。発表を見た時には「なぜ、動きが変わつたのかな」「なぜ、このような動きになつたのかな」と発問することで、動きと要素を結び付けて考えることができたと考える。また、発表を見て、「同じ動きだった」「同じ場面だけど動きが違う」という声が聞かれた。言葉に表すなどして、相手に伝えることは、一人一人の感じ方のよさを認め、友達の感じ方に気付いたり、自分の感じ方を広げたりすることにもつなげることができる。感覚的にとらえた言葉や、要素にかかわる言葉の語彙を増やしていくことが大切なよう、音楽に合わせた動きの種類も、増やしていくと、より楽曲の気分に合つた動きを見付けることができるのではないかと思われる。常時活動などで、体を動かすを取り入れたり、歌唱において、歌詞の様子から動きを考えたりする活動の積み重ねを通し、増やしていくことが必要である。低学年においては、自分の考えをうまく言葉に表すことができない児童もいる。動きの後に「なぜその動きになつたの」と聞くことで、児童はなんとなく動いたのではなく、聴き取つたことと動きを結び付けることで自分の動きを説明することができると考える。静かに座つて音楽に集中して聴く活動と合わせて、体を動かしながら聴くことで、音楽の楽しさを感じながら聴くことができ、味わつて聴くことにつながると考える。このようなことから、「～だから、～の動きをしました」という「音楽ことば」を基に、楽曲の気分の変化に合わせて、体を動かしたり、工夫点に着目して友達の動きを見たりしたことは、自分なりの価値観をもって考えを表すために有効であったと考える。

2 実践授業[2] 6年生

(1) 曲想を感じ的にとらえる

① 結果

導入の宇宙に関する曲では、『スター ウォーズ メインテーマ』と『火星』を取り上げ、「どのような様子が思い浮かんだか」と、「なぜそのように感じたのか」を、出た意見を整理して確認をし、感覚的にとらえた「気持ちカード」の言葉と、要素にかかわる「音楽のもとカード」の二つの種類に分けられるようにした。『スター ウォーズ』は、新たに自分の言葉で「～な感じ」と表す言葉が少なく、曲名を言わずに聴いても、「宇宙戦争な感じ」「宇宙な感じ」という言葉が多かった。『火星』では、「戦っている感じ」「何かが出てくる感じ」というように、聴いた音から感覚的にとらえることができた。『木星』は、三部形式であり、「ア」「イ」「ア+終わりの部分」からなる。ほとんどの児童が聴いたことのある中間部分の「イ」から聴いたが、「悲しい感じ」「おだやかな感じ」「なごむ感じ」「流れる感じ」などの言葉で表していた。「ア」と「ア+終わりの部分」については、「迫力がある感じ」「力強い感じ」「はげしい感じ」「はなやかな感じ」という言葉で表していた。1学期には、鑑賞文の中に、「～な感じ」と表す言葉を入れることができた児童が90%であったが、その中の38%の児童は、「きれい」という言葉を使っていた。実践では、全員の児童が「～な感じ」と表すことができ、五つ以上の言葉で説明することができた児童が89%となった。また、感覚的にとらえた言葉の数も増え、学年全体では、148個から609個に増加した(図7)。実践授業後に、1学期と同じ『歓喜』の紹介文を書いたところ、感覚的にとらえた言葉の数が増加していた(図8)。

② 考察

今回の実践に向け、1学期から、ほかの鑑賞曲や器楽曲、歌唱曲においても、曲の雰囲気を「～な感じ」と表す活動を意識して行ってきた。その中で、児童から出た「～な感じ」と表した言葉を「気持ちカード」(図9)として、音楽室に掲示した。新しい言葉が出る度に掲示物として増やしていく、常時見られる環境を作った。それをヒントにしたり、自分の気持ちに近いものを探して新しく言葉で表したりする中で、全体の語彙が増え、それに伴い、一人一人の語彙も増えていったと考える。『木星』の導入では、字

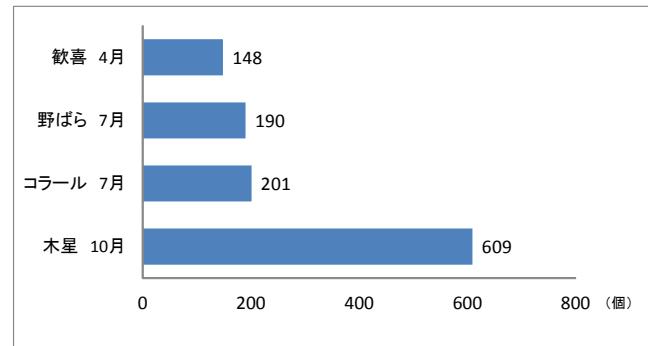


図7 感覚的にとらえた言葉の総数 (6年生90名)

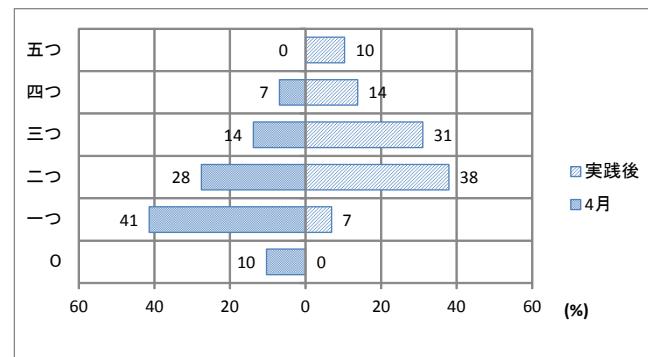


図8 『歓喜』の鑑賞文に含まれる感覚的にとらえた言葉の数の比較

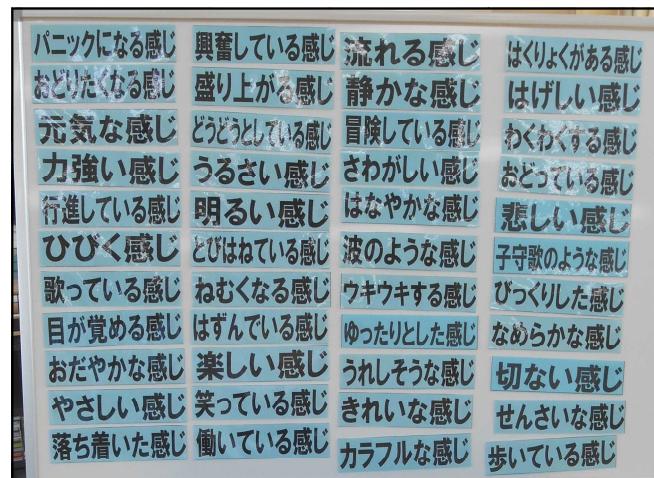


図9 掲示した「気持ちカード」の一部

宙にかかる曲として『スターウォーズ』を取り上げたが、映画の印象があまりにも強すぎたため、音楽そのものから曲想を感じ取ることが難しかった。『火星』は、聴いたことがない児童がほとんどだったため、聴いた音から自分でイメージを作りやすかった。聴いたことのある曲を導入で聴くことは、児童に興味や関心をもたせる上で効果的であるが、映画やテレビで使われている曲は、人によってイメージが作られているので、事前に聴く観点を示すなど、注意が必要である。

『木星』においては、特徴を聴き取りやすくするため、三つの部分に区切って聴き「～な感じ」で曲の雰囲気を表したところ、曲の構成とそれぞれの部分のイメージをとらえることができた。曲を通して聴くだけではなく、短い時間に集中して聴くためにも、特徴的な要素の変化ごとに曲を区切り、部分ごとに聴く方法も非常に効果的であると考える。特徴のある短い部分を聴くことで、特徴をとらえやすく、苦手意識をもってしまう児童も「～な感じ」という短い言葉であることで、自分の考えを表しやすくなり、あまり迷わずに、感覚的にとらえることができた。また、「きれい」という言葉で全体をくくってしまっていた児童も、ほかにもいろいろな言葉を知ることで、感じ取ったことを一つの言葉だけではなく、いくつかの言葉を使って表し、自分の感じたことをより明確に表すことができたと思われる。このようなことから、「～な感じ」に続く言葉で表すことを繰り返し、慣れていくことは、曲想を感覚的にとらえるために有効であると考える。

(2) 「音楽ことば」で説明をする

① 結果

1学期は、感覚的にとらえる言葉とともに、要素にかかる言葉も、児童の語彙が非常に少なかった。「気持ちカード」と同様に、児童から出た要素にかかる言葉を「音楽のもとカード」として掲示し、當時見られるようにした。また、ヒントカード（図10）として、手元で見ることができる資料を作成、配付をし、ワークシート記入の際には参考にできるようにした。実践授業に向か、鑑賞の時だけではなく、歌唱や器楽の時にも、要素を意識した發問をし、言葉だけでの理解ではなく、音と結び付けて要素をとらえられるようにした。以前は、「強い」「弱い」などの強弱や、「速い」などの速度、「バイオリン」「オーボエ」などの音色にかかる「音楽のもと」がほとんどであったが、強弱では、「一斉に弱くなる」「強くなったり弱くなったり」、また、楽器の音色では、「ホルンの低い音」「ティンパニが力強く演奏している」など、より詳しく表す記述が増えた。4月には曲の中の「音楽のもと」を聴き取り、言葉で表すことができた児童の割合が、62%であり、ほとんどが一つだけであった。しかし、実践では、全員が、「音楽のもと」を聴き取ることができ、ほとんどの児童が二つ以上聴き取れた。「音楽のもと」を聴き取ることで、感じ取った理由をその中から探し、結び付けることができた。実践授業後の『歓喜』の紹介文においても、全員が要素にかかる言葉を含んだ文を作成した（図11）。

「音楽のもと」ヒントカード		
<音色>	<速度>	<強弱>
トランペットの響き	速い	クレシェンドしている
金管楽器が響いている	遅い	デクレシェンドしている
木管楽器が響いている	だんだん速くなる	一斉に弱くなる
弦楽器が響いている	だんだん遅くなる	静かに演奏している
楽器が変わった	歩いているような速さ	やさしく演奏している
楽器の音が高い	急に速くなる	強く演奏している
低い音		弱く演奏している
		力強く演奏している
<リズム>		
	付点のリズム	<音の重なりや和声のひびき>
<旋律>		
スラーがかかった	細かいリズム	全部の楽器が演奏している
休みなく演奏している	行進曲のリズム	音のバランスがいい
主旋律	打楽器がはずんでいる	長調の和音
	スキップのリズム	短調の和音

図10 配付用ヒントカードの一部

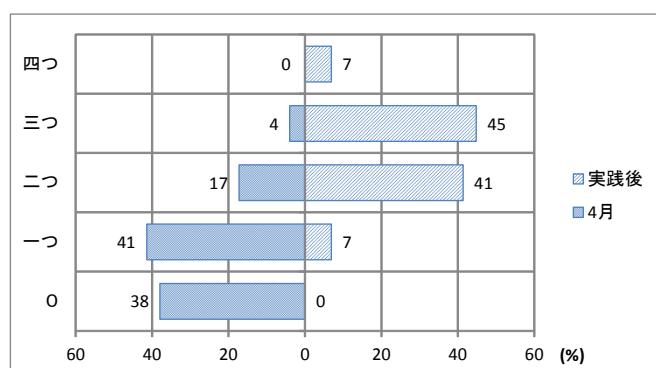


図11 『歓喜』の鑑賞文に含まれる要素（「音楽のもと」）にかかる言葉の数の比較

② 考察

1学期から「音楽のもとカード」も掲示することで、普段から要素にかかわる言葉に触れ、新しい言葉を知り、その言葉がどの要素に含まれているのかを確認することができたと考える。また、ほかの人が気付いていない要素にかかわる言葉は、新たに追加をして掲示することで、まだほかにも聴き取れるものはないか

と、いろいろな要素に気を付けて聴くことにつながったと思われる。選んだ「音楽のもとカード」が違った場合には、もう一度聴いて、音で確認するようにすることで、音と結び付けて、要素を理解することにつながったと考える。また、要素にかかわる言葉を多くもつことで、いろいろな角度から、様々な要素に着目して聴こうとすることができた。最初は気付かなくても、繰り返し聴くうちに新たに「音楽のもと」を聴き取り、「気持ちカード」と「音楽のもとカード」を矢印でつなぎ「音楽ことば」を作ることができた(図12)と考える。「気持ちカード」と「音楽のもとカード」のつなぎ方は、一対一ではなく、一つの言葉に対して、いくつかの言葉がつながることもある。また、同じ「気持ちカード」でも、人によって、どの要素を理由にするかの違いもある。感じ取り方は、人によって違うので、全員が同じになる必要はないが、全く同じにはならなくても、似たような言葉が使われることが多いと考える。このように、「気持ちカード」と「音楽のもとカード」を結び付け「～だから～な感じ」という活動に慣れ、要素にかかわる言葉が増えたことは、説明する理由が見付けやすくなり、「音楽ことば」で説明するために有効であったと考える。

(3) 自分なりの価値観をもって考えを表す

① 結果

紹介文作成にあたり、『木星』を「ア」「イ」「ア+終わりの部分」の三つから、気に入ったところを選び、3か所に分かれてその部分をさらに繰り返し聴いた。繰り返し聴くことで、新たに「気持ちカード」や「音楽のもとカード」の言葉を見付けることができ、「音楽ことば」も増えた。紹介文を書くときには、「気持ちカード」と「音楽のもと」を結び付けた「音楽ことば」を基にすること、曲全体の雰囲気や、要素にかかわる言葉を紹介文に取り入れることができた(図13、14太字部分)。また、ただ「音楽ことば」をつなげたものだけの紹介文にならないよう、「曲の特徴」と「自分の考え」も入れて作るようにした。書き始める前に、ほかの曲の紹

	感じ取ったこと「気持ちカード」	聴き取ったこと「音楽のもとカード」
ア	<ul style="list-style-type: none"> ・はげしい感じ ・力強い感じ ・いそいでいる感じ ・興奮しているところからだんだん落ち着いている感じ ・とびはねている感じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・音が速いから ・力強く一つ一つの音が出ているから ・速い流れから、遅くなっている ・バイオリン、フルートなどの細かい音

図12 「気持ちカード」と「音楽のもとカード」を結び付けている様子(児童の記述より)

ぼくが選んだのは、「ア+終わりの部分」です。この部分は、**はげしい感じ**がしました。その理由は、**バイオリンの高い音が細かいリズムで、低い音はゆっくりなりズムで、この二つのリズムが合わさって**いたからです。ぼくは、この部分に**イの部分が少しだけあったのがいい**と思いました。どうぞ聴いてください。

図13 抽出児童C 『木星』紹介文

わたしが選んだのは、「ア+終わりの部分」です。この部分は、**はなやかな感じ**がします。それは、**フルートやバイオリンの音色が細かくひびいて**いるからです。あと、と中で、**イの部分が少しだけ入って**きます。だけど**ゆったりとしたリズムではなく、テンションの音がひびいて、力強く感じ**ることができます。私は、**リズムがはざんでいるところが好き**です。どうぞ聴いてください。

図14 抽出児童D 『木星』紹介文

介文を例示することで、書き方も分かり、感じ取ったことと要素を結び付けた「音楽ことば」を使って紹介文を書くことができた。「音楽ことば」をつなげただけの文章になってしまった児童は2%いたが、ほとんどの児童が「音楽ことば」のほかに自分の考え方や、曲の特徴などを入れ、紹介文を書くことができた。発表後には、もう一度聴き、全員が、細かいリズムや楽器の音色、最後の部分でまた中間部の旋律が出てきたことなど、新たな曲の特徴を見付けることができた。

② 考察

ねらいに迫るため、曲全体ではなく、気に入ったところの紹介文としたことで、その部分を繰り返し聴く時間を確保することができた。繰り返し聴くことにより、さらに、新しいことに気付くことができ、「音楽ことば」を増やして紹介文につなげることができたと考える。また、紹介文としたことで、伝える相手に、分かりやすく、聴いてみたいと思うような文章になるように意識することができたと思われる。「気持ちカード」の理由を「音楽のもとカード」で説明したものが「音楽ことば」であるため、それを基に紹介文を書くことで、感じ取ったことと要素を結び付けたものとなった。しかし、中には、「音楽ことば」をつなげただけのものになってしまったものもあったため、「曲の特徴」や「自分の考え」が入る紹介文になるよう、活動の繰り返しや積み重ねをし、書き方を知り、慣れることが必要であると考える。友達の紹介文を聞いた後には、違った角度から聴くことで、ほとんどの児童が、新たな曲の特徴にも気付くことができた。「タンバリンの音が聴こえた」「ティンパニが支えていた」「同じメロディーのくり返しがあった」「途中から、バイオリンの旋律にホルンが合流した」「終わりにイの部分が入っていた」などがあり、紹介文を作るだけではなく、交流することで、さらに深く音楽を聴くことができ、味わって聴くことにつなげることができたと考える。

実践後のアンケートでは、「何を書けばいいかが分かった」「感じ取ったことと聴き取ったことを結び付けやすかった」「まとめ方が分かった」などがあった。1学期には、感じ取ったことだけや、聴き取ったことだけに偏って鑑賞文を書いていた児童が86%であったが、実践後には、「音楽ことば」を全員が使うことができた（図15）。曲を聴いて、どのようなことを書いたらよいのか分からなかった児童にとっては、聴き方や書き方、書く内容を示すことができたと考える。

これらのことから、感じ取ったことと要素を結び付けた「音楽ことば」を使って曲の紹介文を作成したことは、感じ取ったことを要素と結び付けて自分なりの価値観をもって考えを表すために有効であったと考える。

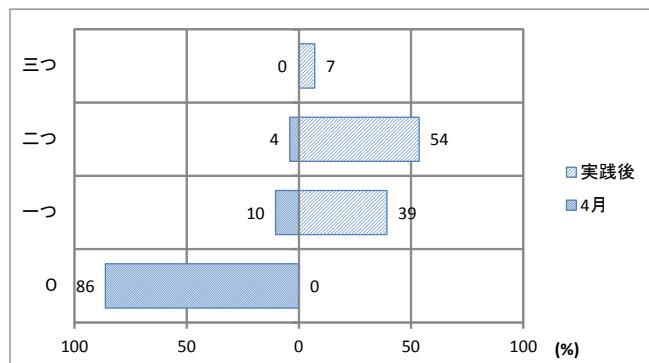


図15 『歓喜』の鑑賞文に含まれる
「音楽ことば」の数の比較

IX 研究の成果と課題

1 成果

- 「音楽鑑賞ガイド」に示した、「曲想を感覚的にとらえる」「感じ取った理由を要素から見付けた音楽ことばで説明する」「音楽ことばを基に自分の考えを表す」という、三つの段階に沿って授業を進めたことで、曲想を感覚的にとらえた言葉や、要素にかかわる言葉を正しく使うことができるようになり、また一人一人の使える言葉が増えた。そして、それらを基に自分なりの価値観を加えながら、考えを表すことができるようになった。
- 低学年においては、言葉で表すことが難しい場合もあるため、体の動きや、絵で表す方法も行った。最初に言葉で表すことができなくても、体の動きや絵の表し方には理由があり、なぜその表現になったのか理由を考えることで、要素へ意識を向け、自分の表現と要素とを結び付けることができた。これらのことから、低学年では、体の動きや絵で表すことを活用して、感じ取ったことを要素と結び付けることが有効であった。
- 授業の導入のような短時間であっても、積み重ねていくことで要素をとらえる力を付けることができる常時活動を取り入れた。また、要素にかかわる発問を意識したり、児童から出た言葉をヒントとして掲示したりすることで、歌唱や器楽などの際にも感覚的にとらえた言葉や、要素にかかわる言葉を使うようにすることができた。

2 課題

- 「音楽ことば」を基に紹介文を作成する実践は6年生で行ったが、感覚的にとらえる言葉や、要素にかかわる言葉を、低学年から段階を踏んで、継続して増やしていくことが必要である。要素の特徴的な曲のリストや指導例などを適宜付け加え、「音楽鑑賞ガイド」がより活用しやすくなるように工夫、改善をする必要がある。
- 音楽の授業者は、専科であったり担任であったりするなど、一貫した指導が難しい。指導者が違っても、学校全体として系統的な指導となるような学習の進め方や、集会で取り組むことができる活動例なども示していくことが必要である。
- 教師用アンケートの課題にもあったが、低学年における、体の動きで表す活動については、自分の思いがあっても、慣れていないとはずかしくなってしまい、考えを表すことができない場合がある。そのため、要素を根拠とした体の動きを、繰り返し、積み重ねていくことが重要である。鑑賞だけでなく、常時活動や歌唱で取り入れることで、表現の幅が広がり、感じ取ったことと、表したいことをうまく結び付けることができるようになるため、短時間で、継続して行うことが必要である。

X 今後の取組について

「音楽鑑賞ガイド」では、6年間を通して、系統立てた指導となるように、授業例などを示し、実践を行った。今回の研究では、鑑賞領域での実践を通じ、感じ取ったことを要素と結び付けて表すことができる児童の育成をねらった。学習指導要領で、「すべての活動において」と示されているとおり、今後は表現領域でも、感じ取ったことを要素と結び付けて表すことの実践を進めていく必要がある。例えば、鑑賞領域で培った力を基に、「力強い感じにしたいから、アクセントを付けて演奏する」などのように、器楽表現へつなげていくことも考えられる。表現及び鑑賞の各領域の関連については、その大切さが強調されながらも、必ずしも十分に関連が図られていない実状がある。鑑賞で聴き取った要素を、即興的な表現に活かしたり、音楽づくりで体験した音楽の仕組みが現れる楽曲を鑑賞したりするような、必要な要素を違う領域の音楽表現に活かすことで、音楽活動の多様性を実感でき、主体的な学習活動につながると考える。歌唱、器楽、音楽づくりの各分野でも、鑑賞で聴き取った要素を活かしていけるよう、それぞれの指導事項を関連付けた題材構成を工夫し、指導計画を作成していくことが考えられる。また、小学校6年間だけでなく、中学校3年間を含めた、9年間を見通し題材構成を工夫することで、より音楽活動の充実を図ることができると考える。

<参考文献>

- ・(財)音楽鑑賞振興財団 編 『音楽鑑賞の指導法 ”再発見”』 (2008)
- ・(財)音楽鑑賞振興財団 編 『これからの鑑賞の授業』 (2011)
- ・高倉 弘光 著 『[共通事項] が見える 子どもがときめく 音楽授業づくり』 東洋館出版社 (2012)
- ・山崎 正彦 著 『見つけよう 音楽の聴き方聴かせ方』 スタイルノート (2012)
- ・渡邊 學而 著 『音楽鑑賞の指導法』 (財)音楽鑑賞振興財団 (2004)

<研究協力校>

榛東村立南小学校

<研究協力者>

二渡 範子

<担当指導主事>

福島 桂 足達 哲也

はじめに…

音楽の授業で鑑賞をする時に、曲を聴いて、鑑賞文を書かせて、終わり！としてしまったことはないでしょうか。音楽科は行事に追われることも多く、歌唱の時間が増えてしまうと、鑑賞にかける時間があまりとれなくなってしまうこともあります。研究協力校では、曲を聴き、「～な感じ」と感覚的にとらえることはできても、なぜそのように感じ取ったのかと聞くと、なんとなく…となってしまい、感じ取ったことの理由を要素を使って説明することができないという実態がありました。

どのような段階を踏んでいくと、感じ取ったことを要素と結び付けて表すことができるのか、その手順を示したものが、「音楽鑑賞ガイド」です。

そこで、要素が特徴的な曲を提示し、「音楽ことば」を増やしていく過程や、授業での活用方法を示すことで、感じ取ったことを要素と結び付けて表すことができる児童の育成へつなげていきたいと考え、「音楽鑑賞ガイド」を作成しました。



感じ取ったことを要素と結び付けて表すことについて

曲を聴いて感じ取ったことを、より明確な、根拠のあるものへ変えていくには、要素を聴き取ることが大切です。そのためには、要素にかかわる言葉を、低学年から、継続的に増やしていくことが必要です。感じ取ったことを要素で説明した「音楽ことば」を用いて、自分の考えを書き表したり、説明したりすることで、考えが明確になります。また、友達と交流することで、自分にはなかった聴き方、感じ方の視点を知ることができます。これらの活動を繰り返し、積み重ねていくことで、「感じ取ったこと」と「要素」を使って自分なりの考え方を表すことができるようになり、曲を「味わって聴く」ことにつながります。



近付いてくる感じがしたのは、音がだんだん強くなっているからなんだ

迫力がある感じがしたのは、金管楽器の低音がひびいているからだ



強弱に気を付けて聴いてみよう



楽器の音色で雰囲気が変わるんだな

音楽鑑賞ガイドとは…

段階を踏まえて指導を進めるための手引き書であり、低、中、高学年に分け、その活用例をまとめたものです。



つかむ

「～な感じ」 曲想を感覚的にとらえる

要素が特徴的で、速度や強弱などの要素がはっきりしていて聴き取りやすいものや、教科書に載っている曲を基に、関連した曲、感覚的にも親しみやすい曲、学年の発達段階に応じた長さの曲などを意識した選定をし、提示します。



広げる

「音楽ことば」で説明する

感覚的にとらえたことを、より明確な根拠のあるものにするために、音楽にかかわる言葉と結び付けます。



深める

自分なりの価値観をもって考えを表す

「音楽ことば」を基に、曲の紹介文や、絵、体を動かす活動などで自分の考えを表します。



音楽が専門ではないから、
教え方が分からぬ



掲示物はどんなふうにした
らしいんだろう

こんな方に
おススメです♪





I 授業の進め方

1 「つかむ」 … 曲想を感覚的にとらえる



要素の特徴的な曲 (1) 低学年

(2) 中学年

(3) 高学年

(4) いろいろな地域の音楽

2 「広げる」 … 「音楽ことば」で説明する



(1) 「気持ちカード」

(2) 「音楽のもとカード」

(3) 「音楽ことば」

3 「深める」 … 自分なりの価値観をもって考えを表す



(1) 紹介文

(2) 体を動かす

(3) 絵

II 授業の進め方に沿った指導例

1 低学年

2 中学年

3 高学年

III 資料編

1 要素とは

2 常時活動

3 掲示用資料



要素が特徴的な曲について



曲の選定について

曲想をとらえるために、要素が特徴的で、速度や強弱などがはっきりしていて聴き取りやすいものや、教科書に載っている曲を基に、関連した曲、感覚的にも親しみやすい曲、学年に応じた長さなどを意識した選定をしました。



演奏時間について

演奏者によって多少時間が異なるため、およその目安として示してあります。



掲載順について

各学年は、作曲者の五十音順
日本の音楽は、都道府県順
世界の音楽は、音楽の種類の五十音順としました。



特徴について

曲の構成や、演奏の中での特徴的な楽器、その曲が使われている場面などを示しました。



要素について

特徴的な要素を載せてありますが、指導計画に合わせて、特に聴き取らせたいものを選べるようにしてあります。

<低学年>

曲名	作曲者	要素	備考	時間
トランペットふきの休日	アンダソン	音色	3本のトランペットの音色 運動会のBGM	2:34
そりすべり	アンダソン	くり返し、音、リズム	スレイベル(鈴)の音色 ルーテ(むちの音)	2:52
おどるこねこ	アンダソン	速度、旋律、反復、問い合わせ	ねこの鳴き声	2:30
シンコペーテッドクロック	アンダソン	音色、反復	ウットブロックが表すされた時計のリズム	2:25
馬と馬車	アンダソン	音色・速度	中間部分でテンポがゆっくり	3:35
ジャズ・ピチカート	アンダソン	旋律	弦楽器のピチカート奏法	1:59
ジャズ・レガート	アンダソン	旋律	弓で弾くアルコ奏法	1:52
ブルータンゴ	アンダソン	リズム・問い合わせ	アンダソンの曲の中で一番ヒットし、かつ有名な曲の1つ	3:05
おもちゃのへいたい	イエッセル	くり返し、旋律、音色	料理番組のテーマ曲	3:17
「山のボルカ」による森のカーニバル	石折冬樹	音色	いろいろな種類の打楽器	3:19
「ディベルティメント」 パレード	イベール	強弱、速さ	ピアノの規則正しいリズムにのってファゴット、トランペットがフレーズを刻む	1:56
「ディベルティメント」 フィナーレ	イベール	強弱、速さ	不規則なピアノの和音の後、トランペットや弦楽器が鳴り盛り上がる	2:02
人形のゆめと目ざめ	オースティン	速度、強弱	三部形式 もとは、ピアノの演奏であるが、オーケストラもある	3:00
どうけしのギャロップ	カバレフスキイ	旋律、リズム	運動会のBGM ピアノとシロフォンが活躍	1:34
サンダーバード	グレイ	旋律、リズム	イギリスで放映された人形劇による特撮テレビ番組のテーマ曲	3:25
ジェンカ	レーティネン	リズム、くりかえし、拍の流れ	フィンランドのフォークダンス ボルカに似た2拍子や4拍子の速い音楽	1:10
組曲「ハーリヤーノシュ」からウィーンの音楽時計	コダーイ	音色、音の重なり、旋律	精巧な音楽時計が演奏する陽気な行進曲 チャイムの音色	2:37
組曲「動物の謝肉祭」から"ライオン"	サン・サーンス	音色	弦楽器のユニゾンで行進が演奏される	2:41
組曲「動物の謝肉祭」から"めんどりとおんどり"	サン・サーンス	旋律	ピアノと弦楽器のにわとりの鳴き声	0:56
組曲「動物の謝肉祭」から"象"	サン・サーンス	旋律、音色	コントラバスがワルツを演奏	1:34
組曲「動物の謝肉祭」から"水族館"	サン・サーンス	旋律、音色	グラスハーモニカの幻想的なメロディーとピアノ伴奏	2:27
組曲「動物の謝肉祭」から"森のかっこう"	サン・サーンス	旋律、音色	クラリネットのかっこうの鳴き声	2:27
組曲「動物の謝肉祭」から"ピアニスト"	サン・サーンス	音色、旋律	ピアノの練習曲をわざと下手に弾く	1:21
組曲「動物の謝肉祭」から"亀"	サン・サーンス	旋律、速度	『天国と地獄』の旋律をゆっくり演奏	2:03
組曲「動物の謝肉祭」から"化石"	サン・サーンス	音色、旋律、反復	いろいろな曲の旋律が組み合わされる	1:56
子犬のワルツ	ショパン	音色	子犬が尻尾を追いかけている様子 ピアノ曲	1:56
さんぽ	久石譲	リズム 速度、拍の流れ	手拍子や行進で拍を感じ取ることができる	2:00
マンボNo.5	プラード	リズム	マンボはラテン音楽の一つ キューバの音楽形式でダンスのスタイル	2:15
アラベスク	ブルグミュラー	拍の流れ	アラビア風に アラビア模様のようなモチーフの連なり	0:57
組曲「冬のかがり火」第1曲 出発	プロコフィエフ	くり返し、音、リズム、速さ、強さ	冬休みにこどもたちが郊外に出て遊ぶ様子を描いた作品	2:40
トルコこうしんきょく	ベートーベン	強弱	ピアノよりオーケストラの演奏の方が強弱がとらえやすい	1:27
メヌエット	ベツオルト	拍の流れ	ヨーロッパの舞曲のひとつ 4分の3拍子 バッハ作曲とされていた	1:00
ピンクパンサーのテーマ	マンシーニ	旋律、リズム	アメリカ映画『ピンクの豹』を第1作とする映画シリーズ	2:18
トリッピトラッピボルカ	ヨハン・シュトラウス(子)	旋律、音色	ドイツ語で「女性のおしゃべり」 運動会のBGM	2:34
かみなりといなずま	ヨハン・シュトラウス(子)	音色	雷(太太鼓)、稻妻(シンバル)	3:07
ラデツキー行進曲	ヨハン・シュトラウス(子)	拍の流れ、強弱	強弱に合わせて手拍子	2:57
爆発ボルカ	ヨハン・シュトラウス(子)	音色	爆発の音	2:11
くまばちはとぶ	リム斯基＝コルサコフ	旋律	くまばちの羽音の様子	1:15
おもちゃのシンフォニー	レオポルト・モーツアルト	音色	おもちゃや擬音楽器を使用する楽しい交響曲	2:00
なみをこえて	ローザス	旋律、リズム	ワインナワルツ風なモチーフが連なる形式	6:10
どれみのうた	ロジャーズ ベギー葉山作詞	旋律、音階	『サウンド・オブ・ミュージック』 音階を体で表しながら歌うことができる	3:00

<遊び歌・民謡>

ちえちえちえっこり	ガーナの遊び歌	反復	輪を作り、中心に立つリーダーに続いてこだまのように続いて歌う
ほうこうばればれ	ニュージーランドのマオリ族の遊び	反復	ばればれのところで動きが変わる
あちやばちやのうちゃ	北欧ラップランド地方の民謡	反復	ボートに乗って魚釣りをする
からだあそびのうた	イギリスの遊び歌	速度	歌いながらその体の部分をさわる
山のごちそう	オーストリアの遊び歌	速度	ホルディアから動きをつける
ロンドン橋	イギリス民謡	速度、旋律、リズム	歌い終わると橋が落ち、つかまつたら負け
ゆかいなまきば	アメリカ民謡	拍の流れ	いろいろな動物の鳴き声が登場する
どうぶつえんへ行こう	アメリカ民謡	拍の流れ	動物園へ行ってから帰るまでを、7番で構成した曲
ティニッククリング	フィリピン民謡	拍の流れ	2本の竹を縄跳びのような動きでかわしながら踊る伝統的なダンス
おせんべやけたかな	わらべうた	リズム、旋律	「な」に当たった手を裏返す遊び
おちららかほい	わらべうた	リズム、旋律、速度	「ほい」でじょんけんをして、速さや動きを工夫できる
おちゃをのみにきてください	わらべうた	リズム、旋律	「こんにちは」「さようなら」で、友達になる遊び
にいちゃんが	わらべうた	リズム、旋律	えかきうた
ちゃちゃつぼ	わらべうた	リズム、旋律	にぎった手をちゃつぼにして遊ぶ
なべなべ	わらべうた	リズム、旋律	二人組からだんだん人数を増やしていく
ずいずいずっころばし	日本の遊び歌	リズム、旋律	歌の終わりにあたるとぬけていく
子犬のbingo	アメリカの遊び歌	リズム、旋律	アルファベットの部分を手拍子にして歌う

＜中学年＞

曲名	作曲者	要素	備考	時間
森の水車	アイレンベルク	旋律、音色	フルートが様子を伺うように表れると、他の木管楽器たちがそれに続く	4:30
聖者の行進	アメリカ民謡	問い合わせ、音の重なり	アメリカ・ニューオーリンズで伝統的な、葬儀におけるパレードで演奏されていた曲	2:00
千の風になって	新井満作曲 若松歓編曲	音色	フルートとクラリネットで演奏されている	4:15
映画「アラジン」から 新しい世界	アラン・メンケン	拍の流れ、音色、音の重なり	男声と女声の重なり	3:52
トランペット吹きの休日	アンダソン	旋律、音色、速度	3本のトランペットの音色 運動会のBGM	2:34
トランペット吹きの子守歌	アンダソン	旋律、音色、速度	『トランペット吹きの休日』と並んで最も知られている曲	3:25
「寄港地」から第2曲<チュニス～ネフタ>	イベール	音階、旋律	ティンバニと弦楽の伴奏に乗せて、オーボエがアラビア風の旋律を演奏する	3:00
中国のたいこ	クライスラー	音色、旋律、反復・変化、速度	中国の太鼓のリズムを写した伴奏にのって奏される、東洋的で急速な旋律	3:56
ペールギュント第1組曲から 朝	グリーグ	拍の流れ、反復、問い合わせ、変化	8分の6拍子 フルートとオーボエの主旋律	3:58
ペールギュント第1組曲から 山の魔王の宮殿にて	グリーグ	旋律、強弱、速度、反復、変化	低音部がピチカートで演奏する主題が次第に全体に広がり、テンポも音量もアップする	2:10
ノルウェー舞曲第2番	グリーグ	旋律、音色、速度・強弱、音階や調、反復・変化	ABAの三部形式 もとはピアノ連弾用に作曲された	2:30
ピタゴラスイッチ	栗原正己	音色	栗コーダーカルテットによるリコーダーの演奏	3:46
「管弦楽のための木挽き歌」から第3部	小山清茂	旋律、音色	主題と三つの変奏の計四つの部分から構成される一種の変奏曲の形	11:00
小鳥のために	作曲者不明	音色	リコーダーで表すいろいろな音色	3:53
組曲「動物の謝肉祭」から白鳥	サン・サンス	旋律、リズム、速度、強弱、反復、変化	チェロの旋律とピアノの伴奏	3:00
子犬のワルツ	ショパン	旋律、速度	子犬が尻尾を追いかけている様子 ピアノ曲	1:56
「くるみ割り人形」 花のワルツ	チャイコフスキイ	リズム、旋律	ハープのカデンツに始まり、ホルンによる主題の提示。そして有名なワルツの旋律に入る。	6:38
「くるみ割り人形」 あしふえの踊り	チャイコフスキイ	旋律、音色	フルートの旋律 三部形式 CMで使われている	2:36
「くるみ割り人形」 中国の踊り	チャイコフスキイ	速度	最後にテンポが速くなる	1:21
ユモレスク	ドボルザーク	音色、旋律、反復・変化、速度	ピアノの独奏曲として作曲されたが、バイオリンでも広く知られている	3:30
さくらさくら	日本古謡	音色	幕末、江戸で子供用の箏の手ほどき曲として作られた	2:10
つるぎのまい	ハチャトゥリヤン	旋律、リズム、速度、強弱、反復、変化	ハチャトゥリヤンの『ガーベ』の最終幕で用いられ、クラドル人が剣を持って舞う戦いの踊りを表す	2:40
メヌエット	ペツォルト	拍の流れ	ヨーロッパの舞曲のひとつ 4分の3拍子 パッハ作曲とされていた	1:00
バディネリ	バッハ	旋律、音色	「冗談」という意味 4分の2拍子のアレグロ フルートの速いパッセージがとても印象的	1:32
「アルルの女」第2組曲から メヌエット	ビゼー	音色	ビゼーの歌劇『美しきバースの娘』の曲をギローが編曲した。フルートとハープの美しい旋律	4:42
「アルルの女」第2組曲から ファランドール	ビゼー	旋律、音の重なり、反復	「王の行進」と「馬のダンス」の旋律	3:30
かね	ビゼー	旋律、重なり、強弱	ホルンで強奏される「鐘の音」のフレーズが繰り返される	4:31
ピーターとおおかみ	プロコフィエフ	旋律、音色	登場人物(動物)はそれぞれ特定の楽器によって受け持たれる	20:00
トルコ行進曲	ベートーベン	拍の流れ、速度、強弱、反復	「アーテネの廢墟」は、ベートーベンが作曲した劇付隨音楽。その中の第5曲「トルコ行進曲」	2:30
交響曲第6番「田園」 第2楽章から	ベートーベン	旋律、音色	古典派交響曲としては異例の5楽章で構成されており、全曲及び各楽章に描寫的な構題が付けられる	13:00
メヌエット ト長調	ベートーベン	音色、反復、変化、旋律、リズム	「小川のほとりの情景」 小川のせせらぎや 木の葉のざわめき、鳥の鳴き声が随所にある	3:00
「水上の音楽」からアラ ホーンパイプ	ヘンデル	音色、問い合わせ、音の重なり	ホーンパイプとはイギリスのフォークダンス、およびそのための舞曲	3:00
クラリネットボルカ	ボーランド民謡	音色(クラリネット)	急速なアルペッジョを中心とした器楽的 クラリネットの独奏あるいは重奏	3:13
まほうのチャチャチャ	ホリン	リズム、音の重なり、反復	チャチャチャのリズムの特徴、打楽器の効果	2:10
さくら変奏曲	宮城道雄	音色(箏)	様々な技法を用いて変奏し尽した作品。音域の異なるお箏の3重奏曲	7:32
交響詩 はげ山の一夜	ムソルグスキー	旋律、強弱、速度、反復、変化	不気味なシーンの効果音として頻繁に使われる	12:00
「展覧会の絵」からプロムナード	ムソルグスキー	音色、音の重なり、問い合わせ	4分の5拍子と4分の6拍子が交互に連続している	1:45
「展覧会の絵」からキエフの大門	ムソルグスキー	旋律、反復、音の重なり	友人の遺作展を歩きながら、そこで見た10枚の絵的印象を音楽に仕立てたもの 第10曲(終曲)	5:43
歌劇「魔笛」から「パ・パ・パ…」二重唱	モーツアルト	問い合わせ	ハバゲーノとパパゲーナの二重唱 ハバゲーノとパパゲーナの二重唱	3:50
「12の二重奏曲」からアレグロ	モーツアルト	旋律、音色	二つのホルン、または二つのバセットホルンのための室内楽曲	3:00
ミュージカル「サウンドオブミュージック」から	ロジャーズ ハマースタイン2世作詞	音色、旋律	エーテルワイス サウンドオブミュージック わたしのお気に入りひとりほっちのひつじかい ドレミの歌	3:00

〈高学年〉

曲名	作曲者	要素	備考	時間
野ばら	ウェルナー	音色、音の重なりや和声のひびき	ゲーテの詩に曲を付け、歌曲にしたてたもの この詩に多くの作曲家が曲を付けている	2:40
威風堂々 第1番	エルガー	音の重なりや和声のひびき、旋律、変化	『威風堂々』と言った場合、第1番あるいはその中間部の旋律を指すことが多い	6:37
ラブソディーインブルー	ガーシュイン	リズム、旋律、強弱、速度	ジーズの語法によるラブソディ クラリネットの、低音からのグリッサンで始まる	8:30
組曲「カレリア」から「行進曲風に」	シベリウス	音色、旋律、反復・変化	二つの主題からなる行進曲	4:47
ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章	シューベルト	音色、旋律、リズム、強弱・速度	通常のピアノ五重奏の編成とは異なりピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロおよびコントラバスという編成	7:00
野ばら	シューベルト	音色	魔王と並び、シューベルトの初期の傑作 ピアノ伴奏は単純で、主和音を右手と左手で交互に奏する	2:30
別れの曲	ショパン	音色、旋律	エチュード第3番ホ長調Op.10-3 別れの曲は、ショパンが付けたものではなく、映画に使われたことに由来する	3:46
箱根八里	滝廉太郎 烏居まこと作詞	音色、音の重なりや和声のひびき	四十七抜き音階(ファとシを抜く)で書かれ、勇ましい行進曲調	2:30
花	滝廉太郎 武島羽衣作詞	音色、音の重なりや和声のひびき	速いテンポの二部形式 ピアノ伴奏付きの女声二部合唱。もしくは女声二重唱	2:12
交響曲第9番「新世界より」第4楽章	ドボルザーク	旋律、変化	序奏付きソナタ形式 シンバルは全曲を通して第4楽章の2分後位に、一打ちだけであることがよく話題となる	11:00
星とたんぽぼ	中田喜直	旋律、音色	4分の4拍子 新実徳英作曲のものと比較 8分の6拍子 転調あり	3:11
雅楽「越天楽」から	日本古曲	音色	雅楽の曲のなかで最も有名な曲 楽器は主に8種類 管楽器、弦楽器、打楽器	12:00
コラール	バッハ	音色、音の重なりや和声のひびき、縦と横の関係	もともとルター派教会にて全会衆によって歌われるための贊美歌	3:50
2声のインベンション第1番	バッハ	音色、旋律	パロック時代では、ピアノではなくチェンバロで演奏されていた	1:20
カノン	バッヘルベル	音の重なりや和声のひびき、縦と横の関係、反復・変化、拍の流れ	三つのヴァイオリン連奏低音のためのカノンとジーゲ ニ長調 ヴァイオリン3本と連奏低音	6:00
ファランドール （「アルルの女」第2組曲から）	ビゼー	反復、旋律、音の重なり	「王の行進」と「馬のダンス」の旋律	3:41
メヌエット （「アルルの女」第2組曲から）	ビゼー	旋律、反復、音色	フルートとハープによる美しい旋律	4:30
闘牛士（「カルメン」より）	ビゼー	旋律、反復	「諸君の乾杯を喜んで受けよう」闘牛士の歌は通称	7:00
ハバネラ（「カルメン」より）	ビゼー	リズム、旋律	ハバネラとは、特徴的なリズムを備えたキューバの民俗舞曲およびその様式	4:32
前奏曲（「カルメン」より）	ビゼー	旋律、反復	前半は、闘牛士たちの入場の場面で用いられる音楽 歌劇「カルメン」といえばこの曲という程に人気が高い	2:10
ハンガリー舞曲第5番	ブラームス	音階や調、反復・変化、音の重なりや和声のひびき	もとは四手用のピアノ曲として書かれた	2:52
「ロメオとジュリエット」から 騎士たちのおどり	プロコフィエフ	旋律、変化、音の重なりや和声のひびき	第1幕第2場第13曲 テレビドラマやCMで使われる	4:03
交響曲第5番「運命」第1楽章	ベートーベン	速度・強弱	ソナタ形式「ダダダーダーン」という有名な動機に始まる	8:00
ピアノソナタ第20番から第2楽章	ベートーベン	音色	「二つのやさしいソナタ」であり、2楽章制の形式から、しばしばソナチネとされる	4:20
七重奏曲から第3楽章	ベートーベン	音色	クラリネット、ファゴット、ホルン、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス 主題は、ピアノソナタ20番	3:00
マンボNo.5	ペレス ブラード	音色、リズム	キューバの音楽形式、コンガ、ボンゴ、ティンバレス、クラベス、ベース、ピアノ、トロボーン、ドラムセット、サックス	3:00
「王宮の花火の音楽」から歓喜	ヘンデル	音色、反復、音の重なりや和声のひびき	オーケストラ(管弦楽) 初演では、管楽器と打楽器のみ	3:52
「水上の音楽」からアラ・ホーンパイプ	ヘンデル	音色、問い合わせ、音の重なり	オーボエ2、ファゴット1、ホルン2、弦楽器	3:00
オラトリオ「ソロモン」からシバの女王の入城	ヘンデル	音色、問い合わせ、縦と横の関係	第三部の導入曲に当たるシンフォニアが、「シバの女王の人之城」と呼ばれ、単独で演奏される	3:00
管弦楽組曲「惑星」から木星	ホルスト	旋律、音色、変化、反復	三部形式 中間部が有名	7:51
管弦楽組曲「惑星」から火星	ホルスト	旋律、音色、変化	「惑星」の第2曲 5拍子	7:14
歌劇「イーゴリ公」からダッタン人のおどりと合唱	ボロディン	音色	オペラでは合唱を伴うが、演奏会では合唱のパートを省略することが多い	13:00
春の海	宮城道雄	音色、旋律、速度、反復・変化	等と尺八、あるいは等とヴァイオリンの二重奏 お正月の曲として知られる	7:50
「唱歌の四季」から	三善晃	音色、音の重なりや和声のひびき	混声4部合唱+2台ピアノ版 同声(童声・女声)3部合唱+1台ピアノ版が広く知られている	13:38
ホルン協奏曲第4番から第3楽章ロンド	モーツアルト	反復、音色、強弱	変ホ長調、8分の6拍子オーボエ2本、ホルン2本と弦楽合奏	2:00
ホルン協奏曲第1番から第1楽章	モーツアルト	音色	二長調、4分の4拍子オーボエ2本・ファゴット2本と弦楽合奏	5:00
アイネ クライネ ナハトムジーク 第1楽章	モーツアルト	強弱・音色	弦楽合奏、あるいは弦楽四重奏にコントラバスを加えた弦楽五重奏	5:40
待ちぼうけ	山田耕作 作詞 北原白秋	旋律	歌詞は中国の法家の思想書の一つ『韓非子』の中にある説話「守株待兔」	3:15
カラタチの花	山田耕作 作詞 北原白秋	旋律	山田耕作と北原白秋の人生経験に根ざしたもので、単純な自然描写ではなく、厳しい時代であった思い出	2:40
ペチカ	山田耕作 作詞 北原白秋	旋律	ペチカとは、レンガなどで作られた暖炉の一種	3:15
ボレロ	ラヴェル	強弱、変化、反復	同一のリズムが保持されるなかで2種類のメロディーが繰り返されるという特徴的な構成	15:55
交響組曲「シェエラザード」から第1 楽章「海とシンドバッドの船」	リムスキー・コルサコフ	旋律、音色、反復・変化	力強く威嚇的なシャリアール王の主題 ハープの伴奏	10:35
交響組曲「シェエラザード」から第2楽章「カ レンダール王子の物語」	リムスキー・コルサコフ	音色、反復、縦と横の関係	中間部は金管楽器で荒々しい感じの旋律	11:35
双頭のわしの旗の下に	ワーグナー	変化・音色、拍の流れ	オーストリア・ハンガリー帝国の軍楽隊長であった時期に作曲したもの、「双頭の鷲」は同国のシンボル	3:40

＜日本の音楽＞

	曲名	都道府県	特徴	様式
祭りや伝統音楽	神田祭り	東京都	鉦、大太鼓、締太鼓、笛 東京の神田神社で行われる祭り	八木節
	三社祭り	東京都	毎年5月に行われる東京都台東区浅草の浅草神社の例大祭 びんざさら舞が奉納される	八木節
	祇園祭り	京都府	祇園祭のお囃子が「コンチキチン」と言われる由縁は、鉦(カネ)	八木節
	天神祭り	大阪府	真紅の頭巾をかぶった願人(がんじ)が掛け声とともに威勢よく催太鼓を打ち鳴らす	八木節
	花田植	広島県	ささらの拍子にあわせ、太鼓や小太鼓、笛や手打鉦で囃し、早乙女が田植歌を歌いながら植える	八木節
	長崎くんち	長崎県	長ラッパ、太鼓、大銅鑼、鉦(ぱら)、小鉦(きやん)、蓮葉鉦(はつお)などの楽器	八木節
	エイサー	沖縄県	地謡の演奏に合わせて太鼓を叩いていく際に、特に締太鼓とバーランカーは身体をひねる、しゃがむ、跳ぶ、回転するといったアクションを見せる	八木節



民謡	ソーラン節	北海道	ニシン漁の歌	八木節
	江差追分	北海道	追分…拍節がない 信州の馬子唄と伊勢松坂節の二つに起源があると考えられている	追分
	津軽じょんがら節	青森県	津軽三味線の伴奏 《津軽よされ節》《津軽おわら節》とともに「津軽の三つもの」と呼ばれる	八木節
	南部牛追い歌	岩手県	牛の背に米、炭、金鉱などを積んで運ぶ時に唄われた	追分
	斎太郎節	宮城県	松島沿岸の民謡で、鰹漁の大漁祝い歌 「松島の～」で始まる	八木節
	秋田おばこ	秋田県	おばこ(娘)に話しかける形式の歌	八木節
	最上川舟歌	山形県	流域で歌われていた舟唄を基に作られた 八木節様式と追分様式のリズムが組み合わされている	八木節 追分
	会津磐梯山	福島県	明治初めに越後から伝えられた盆踊り歌 〈小原庄助さん〉に始まる囃子詞(はやしことば)が特徴的	八木節
	磯節	茨城県	船こぎ歌を基にした酒宴の歌	追分
	八木節	栃木県 群馬県	歌詞はすべて7文字詩、楽器としての樽、大太鼓、小太鼓、鉦、大小の鼓、笛	八木節
	上州馬子歌	群馬県	馬を引きながらの唄で、息を長く引く調子のゆったりしたもの	追分
	草津節	群馬県	高温の湯を板でかき回して適温にする共同作業で歌われる作業唄	八木節
	大漁節	千葉県	大漁の祝い歌 数え歌形式で10番まである	八木節
	箱根馬子歌	神奈川県	馬追いが馬をひきながら唄う、馬子唄の一種、仕事歌	追分
	佐渡おけさ	新潟県	佐渡島の盆踊り歌 九州のハイヤ節が佐渡に伝えられ、変化したもの	八木節
	越中おわら節	富山県	七七七五の26文字で構成する甚句形式、最後の5文字の前に「オワラ」を入れる 三味線、胡弓、太鼓の伴奏と囃子方の囃子	八木節
	こきりこ節	富山県	七寸五分に切った竹を両手一本ずつまみ、回しながら打ち鳴らして踊り歌う	八木節
	三国節	福井県	七七七五調の歌詞から成り、最後の5文字を2度繰り返す、甚句形式	八木節
	縁故節	山梨県	韭崎でつくられた盆踊り、座興唄 アリヤセー コリヤセー	八木節
	木曽節	長野県	木曽の良材を河川に流して運ぶ「川流し」を自然と人情とともに歌っている	八木節
	小諸馬子歌	長野県	長野は、山国で峠などの難所が各地にあるので馬子唄が多い	追分
	郡上節	岐阜県	郡上踊りの際に演奏される囃子	八木節
	ちゃつきり節	静岡県	昭和2年、静岡鉄道が遊園地の開園を記念し、沿線の観光と物産を広く紹介するために、北原白秋に依頼して作詞された	八木節
	デカンショ節	兵庫県	盆踊り歌 七七七五の節回し	八木節
	串本節	和歌山県	「おちゃやれ節」という祭りの神輿歌が座敷歌となり紹介された	八木節
	安来節	島根県	安来節とともに踊る伝統的な民族舞踏であるどじょうすくいがある	八木節
	こんぴら船々	香川県	お座敷唄 琴平町の花柳界で、芸者衆が金毘羅参詣客を相手に唄ってきたもの	八木節
	黒田節	福岡県	七五調 酒豪で知られる黒田氏の武士に殿様が酒を勧め、見事飲み干してしまい、褒美に殿様自慢の槍を貰うという逸話に基づいている	八木節
	鶴崎踊り	大分県	大分県鶴崎地区に伝わる盆踊り	八木節
	ていんさぐぬ花	沖縄県	「ほうせんか」のこと 親や年長者の教えに従うことの重要性を説く教訓歌	八木節
	安里屋ユンタ	沖縄県	「ユンタ」とは、労働の場で男女の掛け合いで歌われる 節歌調にアレンジしたものが安里節	八木節

※拍節的なリズム…明確な拍をもち、一般的に**八木節様式**と呼ばれる 八木節に代表され、労作歌や盆踊歌などが含まれる

拍節的でないリズム…拍節のない自由なリズムで、一般的に**追分様式**と呼ばれる 追分節に代表され、馬子歌などが含まれる

＜世界の音楽＞

	種類	国や地域	特徴
樂器	アルフー	中国	2本の弦を間に挟んだ弓で弾く 琴筒はニシキヘビの皮で覆われている 二胡(中国語でアルフー)
	ウード	イラクなど	多くのウードは11本の弦 半卵形状の共鳴胴を持ち、竿の先が大きく反っている ブレクトラムを用いて演奏
	カヤグム	朝鮮半島	青桐の胴体に絹の絃を張ったもので、長さは5尺(152cm)、幅6寸8文(21cm)で、基本は12絃
	ケーナ	ペルーなど	南米ペルー、ボリビアなどが発祥の縦笛
	ケーン	ラオス・タイなど	雅楽の笙と同じように、たくさんの竹を束ねて作られている
	コラ	セネガルなど	「ゲリオ」と呼ばれる音楽家が演奏する コラは長いネック、ヒヨウタンの共鳴胴、そして21本の弦が特徴
	ズルナ	トルコ	木製の縦笛であり、指孔は表に七つ、裏に一つの計八つある オーボエに似ている
	チャンゴ	朝鮮半島	チャング 鼓を大きくしたような形状で、松の木を削った胴に羊、馬、牛、犬などの革を張る
	ツインバロム	ハンガリーなど	大型の打弦楽器 多くのものは39コース以上の弦、4オクターブ以上の音域をもつ
	ディジエリドゥ	オーストラリア	オーストラリアの先住民アボリジニが今から1000年以上も前から使い始めたと言われる、世界最古の管楽器
	トーキングドラム	ガーナなど	両面に渡してあるひもの締め具合で鼓面の張力が変わり、音の高さが変わる 昔はこれで遠くの人と連絡をとっていた
	バーンスリー	インド	やわらかい音色をもち、竹で作られている横笛
	バグパイプ	イギリス	ふくろ(バッグ)にためた空気を押し出すことで管を鳴らし、音を出す
	バラフォン	ガーナなど	板の下にひょうたんを取り付けた木琴
	バラライカ	ロシア	弦をはじくと、三角形の胴に共鳴して音がかかる
	ンゴマ	ウガンダ、タンザニアなど	タンザニアの太鼓 また、この太鼓を叩いて踊る音楽をンゴマともいう

声や歌	アリラン	朝鮮半島	種類は多く、各地でそれぞれ歌詞も旋律もリズムも異なる〈アリラン アリラン アラリヨ〉(アリ アリラン スリ スリラン)などの句がある
	ケチャ	インドネシア	舞踊劇 口で唱える短いリズムパターンを組み合わせている
	ゴスペル	アメリカ合衆国	手拍子に合わせて、一人と大勢がかけ合うように歌う
	ブルガリアンボイス	ブルガリア	リズムや地声の重なり合いに特徴のある合唱
	ヨーデル	スイス・オーストリアなど	ファルセット(裏声)と低音域の胸声(地声)を繰り返し切り換えて歌う、アルプス地方など発祥の歌唱法

音楽やおどり	ガムラン	インドネシア	大・中・小のさまざまな銅鑼や鍵盤打楽器による合奏の民族音楽
	サンバ	ブラジル	打楽器の複雑なリズムに合わせて、歌い、踊る
	ハワイアン	アメリカ合衆国	4弦のウクレレの伴奏に合わせて歌う
	フォルクローレ	ペルー・ボリビアなど	弦楽器(ギター・チャランゴ・マンドリン・バイオリン・アルバなど)管楽器(ケーナ・サンボニャ・ロンダドールなど)打楽器(ポンボ)のアンサンブル
	フラメンコ	スペイン	歌、手拍子、ギターに合わせて情熱的に踊る

①気持ちカード

「感じ取ったこと」→「気持ちカード」

曲の雰囲気やイメージしたことを「～な感じ」に続く短い言葉で表したものであり、「気持ちカード」として示します。

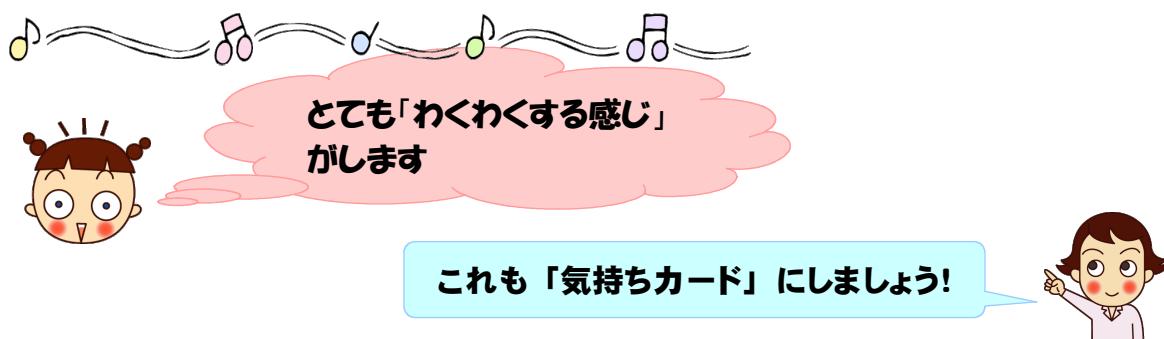
＜気持ちカード＞

はげしい感じ	おどりたくなる感じ	力強い感じ
楽しい感じ	どうどうとしている感じ	静かな感じ
行進している感じ	おどっている感じ	運動会のような感じ
明るい感じ	はくりょくがある感じ	波のような感じ
元気な感じ	わくわくする感じ	おだやかな感じ

＜掲示の様子＞

パニックになる感じ	興奮している感じ	流れる感じ	はくりょくがある感じ
おどりたくなる感じ	盛り上がる感じ	静かな感じ	はげしい感じ
元気な感じ	どうどうとしている感じ	冒険している感じ	わくわくする感じ
力強い感じ	うるさい感じ	さわがしい感じ	おどっている感じ
行進している感じ	明るい感じ	はなやかな感じ	悲しい感じ
ひびく感じ	とひねねている感じ	波のような感じ	子守歌のような感じ
歌っている感じ	ねむくなる感じ	ウキウキする感じ	ひっくりした感じ
目が覚める感じ	はすんでもいる感じ	ゆったりとした感じ	なめらかな感じ
おだやかな感じ	楽しい感じ	うれしそうな感じ	切ない感じ
やさしい感じ	笑っている感じ	きれいな感じ	せんさいな感じ
落ち着いた感じ	働いている感じ	カラフルな感じ	歩いている感じ

授業で児童から出た「～な感じ」につながる言葉を、「気持ちカード」として、常時掲示しておき、語彙が少ない児童も、その中から近いものを選んだり、参考にしたりしながら、自分の言葉として表すことができます。



②音楽のもとカード

「聴き取ったこと」→「音楽のもとカード」

〔共通事項〕で示されている「要素」にかかる言葉を「音楽のもとカード」として示します。

<強弱>

強く演奏している
弱く演奏している
強くなったり弱くなったりする
急に強くなる
急に弱くなる

クレッシェンドしている
デクレッシェンドしている
強弱をつけていない
強弱がはげしい
一斉に強くなった

<速度>

テンポが同じ(一定)
テンポが速い
テンポが遅い
だんだん速くなる
だんだん遅くなる

<音色>

金管楽器が響いている
木管楽器が響いている
弦楽器が響いている
打楽器がたくさん鳴っている
楽器の音が高い

<低学年用>

つよい
よわい
きゅうにつよくなる
だんだんつよくなる
だんだんよわくなる

はやい
おそい
だんだんはやくなる
だんだんおそくなる
すこしつよい



中・高学年 掲示の様子

詳細は、「Ⅲ 資料編 3 掲示資料」へ

「気持ちカード」と同様に、児童から出た要素にかかる言葉を「音楽のもとカード」として掲示し、常時見られるようにします。



 「音楽のもと」ヒントカード

<音色>			
トランペットの響き	速い	クレシエンドしている	明るい(長調)
金管楽器が響いている	遅い	デクレシェンドしている	暗い(短調)
木管楽器が響いている	だんだん速くなる	一斉に弱くなった	沖縄っぽい
弦楽器が響いている	だんだん遅くなる	静かに演奏している	わらべうたみたい
楽器が変わった	歩いているような速さ	やさしく演奏している	
楽器の音が高い	急に速くなる	強く演奏している	
低い音		弱く演奏している	<拍の流れやフレーズ>
		力強く演奏している	4分の4拍子
<リズム>			
	付点のリズム	<音の重なりや和声のひびき>	途中で拍子が変わった
<旋律>			
スラーがかかった	細かいリズム	全部の楽器が演奏している	歌詞の切れ目
休みなく演奏している	行進曲のリズム	音のバランスがいい	2小節のまとまり
主旋律	打楽器がはさんでいる	長調の和音	
	スキップのリズム	短調の和音	
<反復>			
同じメロディーのくり返し	話しているみたい	高くなったり低くなったりする	<縦と横の関係>
最初の部分と同じ	合いの手	速くなったり遅くなったりする	主旋律、副旋律
			伴奏と歌



「音楽のもと」の言葉は、このほかにもたくさんあります。
新たに自分で見つけた言葉は書き足していきましょう。

組番名前

ワークシート記入の際に手元に置くヒントカード。空欄には言葉を足していきます。



要素を理解するために、絵を加えた説明を常時掲示しておきます。

詳細は、「III 資料編 1 要素とは」へ

「要素」を理解し、「要素」にかかる語彙を増やしていくため、表現教材、鑑賞教材を問わず、すべての音楽活動の中で要素を意識した発言を促すなどの活動を、繰り返し、積み重ねていくようにします。



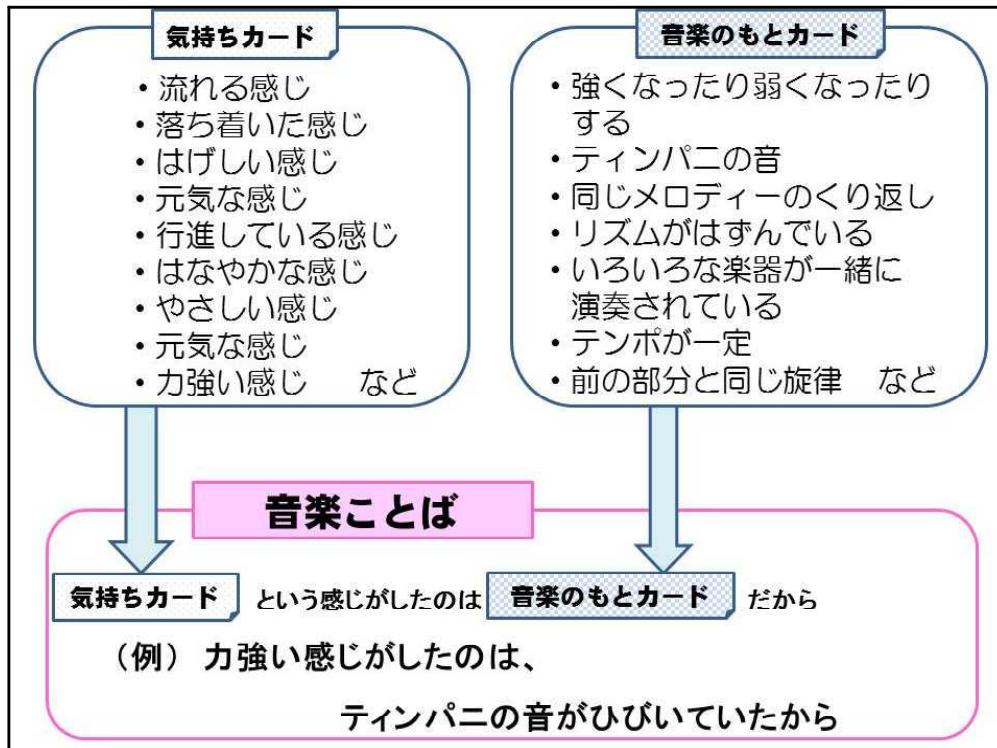
この部分を盛り上げて歌いたいな。強く歌おう！

なめらかな感じに聴こえるように演奏したいから、スラーを付けよう！

③音楽ことば

「～と感じ取ったのは、（要素）が、～だから」→「音楽ことば」

「音楽ことば」とは、感じ取った「気持ちカード」の理由を、「音楽のもとカード」で説明したものです。



	感じ取ったこと「気持ちカード」	聴き取ったこと「音楽のもとカード」
ア	<ul style="list-style-type: none">・はげしい感じ・力強い感じ・いそいでいる感じ・興奮しているところからだんだん落ち着いている感じ・とびはねている感じ	<ul style="list-style-type: none">・音が速いから・力強く一つ一つの音がでているから・速い流れから、遅くなっている・バイオリン、フルートなどの細かい音

<ワークシートの例>

感じ取ったこと「気持ちカード」と聴き取ったこと「音楽のもとカード」の言葉を、なぜそのように感じ取ったかの理由になるように、「音楽のもとカード」の言葉と矢印でつなぎます。

「感じ取ったこと」と「音楽のもと」を結び付けることで、感じ取った理由を曲の中から見付けることができます。



感じ取った理由を聴き取ったことから見付けて、つなぐことで、「音楽ことば」になるんだね



紹介文

「音楽ことば」を使って、紹介文を作ります。「音楽ことば」をつなげただけの文章にならないよう「音楽の特徴」「自分の考え」も入れて作成するようにします。

<紹介文を書く>

音楽ことば

曲の特徴

自分の考え

木星の紹介文を書こう

6年 組番名前 _____

ぼく・わたしが選んだのは《 》の部分です。

どうぞ聴いて下さい。

『木星』の紹介文（例）

ぼくが選んだのは、「ア+終わりの部分」です。この部分は、**はげしい感じ**がしました。その理由は、**バイオリンの高い音**が**細かいリズム**で、**低い音**はゆっくりなり**リズム**で、この二つの**リズム**が合わさっていたからです。ぼくは、この部分に**イの部分**が少しだけあったのがいいと思いました。どうぞ聴いてください。

わたしが選んだのは、「ア+終わりの部分」です。この部分は、**はなやかな感じ**がします。それは、**フルートやバイオリンの音色**が**細かくひびいて**いるからです。あと、**と中で**、**イの部分**が少しだけ入ってきます。だけどゆったりとした**リズム**ではなく、**ティンパニの音**が**ひびいて**、**力強く感じ**ることができます。私は、**リズム**が**はずんで**いるところが好きです。どうぞ聴いてください。



「音楽ことば」があるから、何を書いたらいいかが分かった！



聴いたことのない人に紹介するように書くから、全体の曲の雰囲気も伝わるといいよね

長い曲では、ねらいにせまるため、部分ごとに分けて鑑賞し、紹介文を作る方法も効果的です。



<交流し、さらに聴く>

友達の紹介文を聞き、違った角度から聞くことで、新たなことに気付くことができます。

授業時間に全員が発表できなくても、掲示することで
さらに交流することができます。



<もう一度聞いて、新たに気付いたこと>



こんな音もあったのか…！
今度聞いた時に確かめてみよう

- ・同じメロディーのくり返しがあった。
- ・ティンパニが支えていた。
- ・途中から、バイオリンの旋律にホルンが合流した。
- ・最後の部分で、イの部分の旋律が聴こえた。



友達が言っていた「最後にイの部分の旋律が出てくる」ことに気を付けて聴いたら、今まで気付かなかつたけど、イの旋律が聴こえたよ



同じ旋律でも、演奏する楽器が違うと雰囲気が違うんだな。他の曲でも、楽器の音色に気を付けて聴いてみたいな

「紹介文」とすることで、相手意識をもち、相手に分かりやすく、聴いてみたいと思うような文章にするよう意識することができます。



感じ取った理由を要素と結び付ける活動を繰り返し、慣れていくことで、感じ取ったことと聴き取ったことに一つ一つ分けてから考えなくとも、「音楽ことば」が書けるようになります。



体の動きで表す

<常時活動>

<歌詞の内容や曲の感じに合わせた動き>
「大きい」歌詞のところで、手を大きく上げる



「大きい」という歌詞に合わせて、手を大きく上げると、歌い方も大きくなるね

<拍の流れに合わせて手拍子>
手拍子をしながら、何拍子の曲かを考える



2拍子の手拍子「1、2、1、2」だと合わないな… いくつだと合うかな

<前奏の曲の様子に合わせた動き>
速さや強さに合わせて歩く



低い音でゆっくりだったから、ゆっくり、のしのし歩こう！ぞうのさんぽだね

高い音で、はねている感じだから、急いで歩いたよ！ ねずみのさんぽだね

詳細は、「Ⅱ 授業の進め方に沿った指導例」へ



音が強い時には、うでを大きくふってみよう



どんな音の時に、どんな動きが合うかが、分かってきたよ

常時活動などを通して、繰り返し体の動きで表す活動を行うことで、動きにも慣れ、動き方の幅も広がります。



なぜそのような動きになったのかを聞くことで、聴き取ったことと動きを結び付けることができます。

<曲の様子に合わせた体の動き>



グループごとに、曲を繰り返し聴き、聴き取った音からどんな動きが合うのか、グループで考える

リズムがはずんでいるから、スキップしながらまわる動きにしてみよう



工夫点を伝えてから、曲に合わせて、考えた動きを発表する

音がだんだん弱くなるので、だんだん小さくなる動きにしました



同じ場面だけど動きが違っていたよ。



わたしのグループと同じ動きだったのは、「つよい」部分の動きだからなんだ

相手に伝えることでは、一人一人の感じ方のよさを認め、友達の感じ方に気付いたり、自分の感じ方を広げたりすることにつながります。



「～だから～の動きをしました」と工夫点を伝え、発表以外の時には、工夫点に着目して、動きと音楽の様子が合っているか見ることで、動きと音を結び付けることができます。

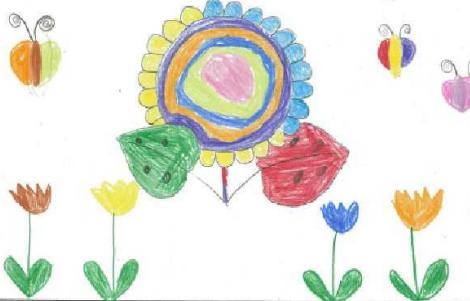


絵で表す

曲を聴いてどのような様子が思い浮かんだかを、色を塗ったり、絵を描き足したりすることで表す方法もあります。なぜ、その色を使ったのか、理由も書かせることで、曲のどの部分から、その絵につながったのかを見取ることができます。

<絵を描く活動>

どんなはなのようすかな。いろをぬったり、えをかきたしたりしよう。



ラッパの音がきれいだったので、カラフルなチューリップを描きました

元気な音になったので、元気な色をつかいました



水が流れるような音がしたので川を描きました

最後に近いところで音が大きくなつたので、濃い色も少し使いました

絵で表す活動は、すべてを絵で表すのではなく、色をぬる活動と、なぜその色にしたのかを説明することを組み合わせる方法もあります



<説明を書く活動>

なぜその色にしたのかをもう一度考えることで、理由を音楽の中から見付け、感じ取ったことと要素と結び付けて表すために有効です。

ようすをおもいうかべよう

(速度・音色・強弱) 低学年

- ♪『さんぽ』(歌唱)
- ♪『人形のゆめと目ざめ』

○学習内容 ・ 学習活動	◇教師の支援 吹き出し：教師の発言
<p>○『さんぽ』を曲の楽曲の気分に合わせて、体を動かしながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌いながら、曲に合わせて歩く。 ・強弱や速度の変化など、曲の雰囲気に合わせて、歩き方も変える。 ・なぜそのような動きになったのか、理由を考える。 	<p>◇楽曲の気分に合わせた動きをするため、強弱、速度などを変えた伴奏をする。</p> <p>伴奏をよく聴いて、曲の雰囲気に合わせて、歩きながら歌いましょう。</p> <p>どうして、その動きになったの？</p> <p>♪『さんぽ』</p>
<p>○『人形のゆめと目ざめ』を聴き、全体の構成と楽曲の気分をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の気分が変わったところで、手を挙げる。 ・曲を聴きながら、三つの場面の絵を、曲の順番に並べ替える。 ・全体で確認をし、なぜその順番になつたのかを考える。 	<p>◇『人形のゆめと目ざめ』の全体の構成をつかむために、音楽の様子に合わせて体を動かしながら聴き、三つの絵がどの場面なつか並べ替える活動を取り入れる。</p> <p>曲が三つの場面に分かれています。場面が変わったと思ったところで手を挙げましょう。そして、三つの絵がどの順番であるか聴きながら並べてみましょう。</p> <p>それぞれの場面の様子を「～な感じ」と表しましょう。</p> <p>♪『人形のゆめと目ざめ』</p>
<p>○場面の様子に合った動きを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3か所に分かれ、それぞれの場面を繰り返し聴き、要素を聴き取り、グループワークシートに記入する。 ・曲の強弱や速度の変化に着目し、「～だから、～の動き」となるように曲の様子に合う動きをグループで練習をする。 	<p>◇感じ取ったことの理由を、「音楽のもと」と結び付け、「～だから、～の動き」として「音楽ことば」を作るため、要素に着目できるようにする。</p> <p>なぜ、そのような動きにしましたか。</p> <p>急に強くなったところと急に弱くなったところは、どんな動きが合うと思いますか。</p> <p>♪『人形のゆめと目ざめ』(三つの場面ごとに分けたもの)</p>
<p>○グループごとに場面の様子に合う動きを、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～だから～の動きにしました」と工夫点を伝えてから発表をする。 ・見ている時は、動きと曲の様子が合っていたかを確認する。 	<p>◇どの要素に着目した動きなのが分かるように、工夫した点を伝えてから発表することとする。</p> <p>自分のグループのイメージが伝わるように、見ている人は、どんな人形のイメージかを考えましょう。</p> <p>◇自分のイメージと比較するために、教科書の挿絵を見ながらもう一度聴き、新たに気付いたことを発表できるようにする。</p> <p>教科書の人形の様子を見ながら、聴きましょう。新たに気付いたことを発表しましょう。</p> <p>♪『人形のゆめと目ざめ』</p>
<p>○『人形のゆめと目ざめ』を教科書の挿絵を見ながら聴き、自分のイメージと比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージと似ているところや違っていたところを聴き取る。 	

☆「さんぽ」は、伴奏で弾かなくても、手拍子で拍を示して速度を伝えたり、最後の2小節だけ旋律を弾いて、強弱を示したりする方法もあります。

何拍子の曲かな

(拍の流れ) 低学年

♪『いるかはざんぶらこ』(歌唱)

♪『ラデツキー行進曲』

♪『花のワルツ』

♪『火星』

○学習内容・学習活動	◇教師の支援 吹き出し：教師の発言
○『いるかはざんぶらこ』を手拍子をしながら歌う。 <ul style="list-style-type: none">3拍子であったことと、どのような手拍子であったかを確認して、歌いながら手拍子をする。ほかにも2拍子があったことと、2拍子の手拍子を確認する。	◇既習曲が拍子が何拍子だったのかを確認するため、2拍子、3拍子の表し方を確認し、手拍子と歌が合うようにする。 2拍子、3拍子のどちらの手拍子が合うでしょうか。 この曲は何拍子でしょうか。
○曲を聴いて、どのような様子が思い浮かぶか考える。 <ul style="list-style-type: none">それぞれの曲を聴いて、どのような場面が思い浮かぶかを考え、曲の感じをとらえ「～な感じ」という短い言葉で表す。拍や旋律の流れに気を付けて聴く。	◇曲を聴いてイメージをもたせるため、曲名は伝えず、音から様子を思い浮かべられるようにする。 これから、二つの曲を聴きます。どのような様子が思い浮かべられたか「～な感じ」という短い言葉で考えましょう。
○感じ取った理由を「音楽のもと」で説明する。 <ul style="list-style-type: none">なぜ「～な感じ」と思い浮かんだのか、理由を考える。手拍子をしながら聴くことで、拍子が違うことと、拍子の違いが曲の雰囲気にかかわっていることを感じ取る。	◇拍の違いに気付くようになるため、手拍子をしながら聴いてもよいこととする。 なぜ、そのような感じが思い浮かんだのでしょうか。 どちらの手拍子が合うのか、聴きながら叩いてみましょう。聴き終わってから、どちらが合うのか聞きますので、手で、2か3かを「せーの」で見せてください。
○『火星』を聴き、何拍子かを考える。 <ul style="list-style-type: none">同じように実際に手拍子をしながら2拍子も3拍子も合わないことを感じ取る。『ラデツキー行進曲』では、足踏みをしながら聴く。『花のワルツ』は3拍子の指揮をしながら聴く。『火星』は、どのようにしたらよいか考える。	◇他にもいろいろな拍子があることに気付けるようになるため、5拍子の曲である『火星』を取り入れる。 『火星』に合う手拍子を考えてみましょう。 それぞれの曲に合うように、体を動かしながら聴きましょう。 ♪『ラデツキー行進曲』 ♪『花のワルツ』 ♪『火星』

いろいろな管楽器の音色を聴こう

(音色・旋律) 中学年

- ♪ 『トランペット吹きの休日』
- ♪ 『トランペット吹きの子守歌』
- ♪ 『ホルン協奏曲』

○学習内容・学習活動	◇教師の支援 吹き出し：教師の発言
○ 2曲を聴き比べ、何の楽器で演奏されているのかを考える。 ・掲示してある楽器の写真や楽器名を参考にしながら、どの楽器で演奏しているのかを考える。	◇同じ楽器でも、演奏の仕方によって音色が変わることに気付くようにするため、同じ楽器で演奏されている2曲を聴くこととする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">これから、二つの曲を聞いてもらいます。中心となって演奏している楽器は何でしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none">♪ 『トランペット吹きの休日』 (1分位)♪ 『トランペット吹きの子守歌』 (1分位)
○ トランペットについて知る。 ・トランペットは金管楽器に属することを知り、音の出し方や構造を知る。	◇トランペットについて興味をもたせるため、トランペットだけの音色を聴かせたり、実物をさわらせたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">これから、『トランペット吹きの休日』を通して聴きます。曲を聴いて思い浮かべた様子を「～な感じ」に続く、短い言葉で表しましょう。</div> <ul style="list-style-type: none">♪ 『トランペット吹きの休日』 (全曲)
○ 『トランペット吹きの休日』を全曲通して聴き、曲想をとらえる。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;">◇「音楽のもと」を意識できるようにするため、トランペットの音色の特徴や曲の構造について確認をしてからもう一度聴くこととする。</div> <div style="background-color: #e0f2e0; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-left: 20px;">感じ取った理由を、「音楽のもと」を使って書きましょう。</div> <div style="background-color: #e0f2e0; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-left: 20px;">次に、『ホルン協奏曲』を通して聴きます。曲を聴いて「～な感じ」に続く、短い言葉で表しましょう。そしてその感じ取った理由も「音楽のもと」で書きましょう。</div> <ul style="list-style-type: none">♪ 『トランペット吹きの休日』とホルンの音色の違いに着目できるように、それぞれの音色の特徴を確認しておく。♪ 『ホルン協奏曲』
○ 『ホルン協奏曲』も同じように「音楽ことば」を作り、作ってから最後にもう一度聴く。 ・ホルンもトランペットと同じ金管楽器であることを知り、ホルンの音の出し方や構造を知る。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;">◇自分が気付かなかつたことにも気を付けて聴けるようにするため、友達の紹介文を聞いてから、もう一度曲を聴くこととする。</div> <div style="background-color: #e0f2e0; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-left: 20px;">「音楽ことば」を使って、聴いたことのない人にも分かるように、曲の紹介文を書きましょう。</div> <div style="background-color: #e0f2e0; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-left: 20px;">最後にもう一度、曲を聴きましょう。</div> <ul style="list-style-type: none">♪ 『トランペット吹きの休日』♪ 『ホルン協奏曲』

いろいろな音の重なり

(反復・旋律・音の重なり) 中学年

♪ 『ファランドール』 ♪ 『パレードホッホー』(歌唱)

○学習内容・学習活動	◇教師の支援 吹き出し：教師の発言
○『パレードホッホー』を歌う。 ・二つの旋律をそれぞれ歌い、どのような旋律だったかを確認をしてから、2部合唱をする。 ・二つの旋律が重なっていたことを聴き取る。	◇既習曲で、旋律が重なっていたことに気付けるようにするため、『パレードホッホー』を二つのパートに別れて歌う。 3段目と4段目どうなっていましたか。 ♪『パレードホッホー』
○『ファランドール』を全曲通して聴き、『パレードホッホー』との共通点をとらえる。 ・二つの旋律が重なっている部分があることに気付く。 ・「馬のダンス」が聴こえたらグー、「王の行進」が聴こえたらチョキを出しながら聴き、二つの旋律がどのように表れているのかを確認する。	◇旋律が重なっていることに着目させるため、『ファランドール』と『パレードホッホー』との共通点を考えるようにする。 これから聴く曲と『パレードホッホー』との共通点は何でしょうか。 ◇二つの旋律がとらえられているのかを見るため、手の合図で確認する。 次に通して聴くので、「馬のダンス」が聴こえたらグーを、「王の行進」が聴こえたらチョキを挙げましょう。 これから二つの旋律を聴きます。どのような様子が思い浮かびますか。「～な感じ」と表してみましょう。
○『ファランドール』の「馬のダンス」と「王の行進」の部分を聴いて旋律の雰囲気をとらえ、「～な感じ」と表す。 ・それぞれの旋律の特徴をとらえる。 	♪『ファランドール』 ◇「音楽ことば」を作るため、要素にかかる言葉を確認してから、感じ取ったことの理由を、「音楽のもと」と結び付けるようにする。 感じ取った理由を、「音楽のもと」を使って書きましょう。 それぞれの旋律が重なった時に、雰囲気はどのように変わりましたか。
○感じ取った理由を、「音楽のもと」で説明する。 ・「馬のダンス」「王の行進」、重なった時に分けて、その部分の曲の特徴を全体で確認してから、感じ取った理由を「音楽のもと」と結び付ける。 ・同じ旋律でも、途中から雰囲気が変わることにも気を付けて聴くようする。 	◇感じ取った根拠を曲の中から見付けるために、「音楽ことば」を使い、自分なりの考えを加えて紹介文となるようにする。 「音楽ことば」を使って、聴いたことのない人にも分かるように、曲の紹介文を書きましょう。 最後にもう一度、曲を聴きましょう。
○「音楽ことば」を使って、紹介文を作り、発表してから最後にもう一度聴く。 ・紹介文を作って発表したり、友達の紹介を聞いたりしてから、もう一度聴く。 ・友達の紹介から、新たなことに気を付けて聴く。 	♪『ファランドール』

いろいろな音が重なり合うひびきを味わおう

(音色・強弱・旋律) 高学年

- ♪ ペールギュント組曲 『オーゼの死』 吹奏楽・弦楽合奏
♪『双頭のわしの旗の下に』 ♪『アイネ クライネ ナハトムジーク』

○学習内容・学習活動	◇教師の支援 吹き出し：教師の発言
○吹奏楽と、弦楽合奏の聞き比べをする。 <ul style="list-style-type: none">二つの曲を聴いて、何が違うのかを考える。同じ曲で雰囲気が違うのは、演奏形態が違うことを聴き取る。 ○吹奏楽と弦楽合奏の楽器編成を知る。	◇音色の違いに気付くようにするため、同じ曲で演奏形態の違うものを比較して鑑賞する。 これから、二つの曲を聴いてもらいます。 何が違うのでしょうか。 ♪『オーゼの死』 オーケストラ（この部分は弦楽合奏）と吹奏楽 ◇楽器編成によって、曲の雰囲気が変わるために、吹奏楽と弦楽合奏で使われている楽器編成を伝える。
○『双頭のわしの旗の下に』の吹奏楽の演奏を全曲通して聴き、曲想をとらえる。 <ul style="list-style-type: none">曲の雰囲気が変わったところで手を挙げながら聞く。吹奏楽と弦楽合奏の響きと比較し、どちらの演奏形態であったかを聴き取る。それぞれの部分を「～な感じ」で表す。	これから、『双頭のわしの旗の下に』を通して聴きます。三つの部分に分かれています。曲の雰囲気が変わったと思ったところで、手を挙げてください。 ◇演奏形態に着目できるようにするために、使われている楽器の音色に注意して聴くこととする。 どのような演奏形態でしたか。 それぞれの部分を「～な感じ」に続く、短い言葉で表しましょう。 ♪『双頭のわしの旗の下に』
○感じ取った理由を、「音楽のもと」で説明する。 <ul style="list-style-type: none">全体の構成と特徴をとらえながら、要素を聴き取る。「音楽のもと」から理由を見付け、発表する。 ○『アイネ クライネ ナハトムジーク』も同じように「音楽ことば」を作る。 <ul style="list-style-type: none">演奏形態によって曲の雰囲気が変わることに気をつけ、吹奏楽、弦楽合奏のどちらであるかを聴き取り、使われている楽器の音色を確認する。	◇「音楽ことば」を作るために、それぞれの部分の聴き取ったことを全体で確認する。 感じ取った理由を、「音楽のもと」を使って書きましょう。 『アイネ クライネ ナハトムジーク』を通して聴きます。曲を聴いて「～な感じ」に続く、短い言葉で表しましょう。そしてその感じ取った理由を「音楽のもと」から見付けて、「音楽ことば」を作りましょう。 ◇演奏形態に着目するため、使われている楽器に注意して聴くこととする。 ♪『アイネ クライネ ナハトムジーク』
○「音楽ことば」を使って、紹介文を作り、発表してから最後にもう一度聴く。 <ul style="list-style-type: none">紹介文を作って発表したり、友達の紹介を聞いたりしてから、もう一度聴く。	◇演奏形態の違いに着目させるため、どちらか1曲を選んで紹介文に特徴を入れられるようにする。 『音楽ことば』を使って、聴いたことのない人にも分かるように、どちらかの曲の紹介文を書きましょう。 最後にもう一度、曲を聴きましょう。 ♪『双頭のわしの旗の下に』 ♪『アイネ クライネ ナハトムジーク』

曲想を味わおう

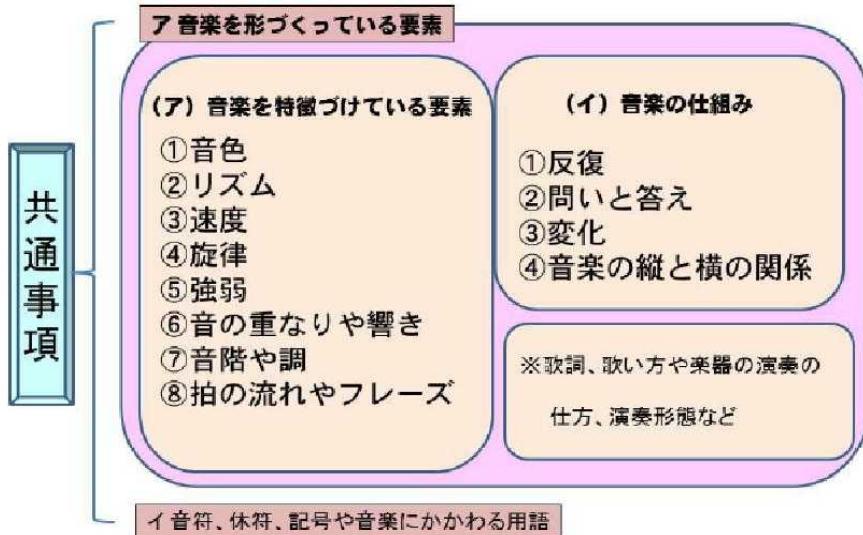
(旋律・反復・音色・変化) 高学年

- ♪ 組曲 惑星より 『火星』 ♪ 組曲 惑星より 『木星』
♪ 『スター・ウォーズ メインテーマ』

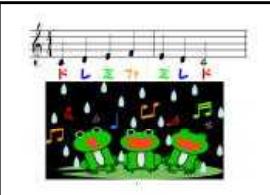
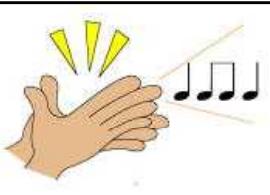
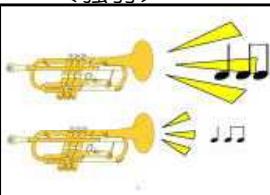
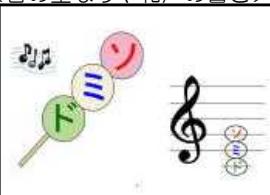
○学習内容・学習活動	◇教師の支援 吹き出し：教師の発言
○宇宙にかかる曲を聞く。 <ul style="list-style-type: none">曲を聞いて、全体の雰囲気を客観的にとらえ、「～な感じ」という短い言葉で表す。宇宙にかかる曲という共通点を知り、二つの曲の共通点を考える。	◇宇宙へのイメージをもつようにするため、宇宙にかかる曲を聞き、『木星』へつなげられるようにする。 これから、曲を聞いてもらいます。どのようなイメージが浮かぶでしょうか。「～な感じ」と表しましょう。 ♪『スター・ウォーズ メインテーマ』 ♪『火星』 共通点は何でしょうか。
○『木星』を聞き、曲想をとらえる。 <ul style="list-style-type: none">中間部分を聞き、「～な感じ」と表す。曲の雰囲気が変わったところで手を挙げながら聴く、曲の構成をとらえる。それぞれの部分を曲想をとらえ、「～な感じ」で表し、発表する。	◇全体の構成と曲想をとらえるために、中間部、次に全体を聞き、「～な感じ」につながる言葉を使って、短い言葉で表すようする。 最初に聞いてもらったのは、中間部分です。「～な感じ」に続く言葉で表しましょう。 これから、『木星』を最初から聴きます。この曲は、三つの部分に分かれています。曲の雰囲気が変わったと思ったところで、手を挙げてください。それぞれの部分を「～な感じ」に続く、短い言葉で表しましょう。 ♪『木星』
○感じ取った理由を、「音楽のもと」で説明する。 <ul style="list-style-type: none">感じ取った理由を、「音楽のもと」で説明した「音楽ことば」を作る。「音楽のもと」の言葉が分かりにくい場合は、掲示してある言葉を参考にする。	◇「音楽ことば」を作るために、それぞれの場面の聴き取ったことを全体で確認をする。 感じ取った理由を、「音楽のもと」を使って書きましょう。 ◇感じ取った理由と、「音楽のもと」を正しく結び付けていることができているかを全体で確認する。
○「音楽ことば」を使って、紹介文を作り、発表してから最後にもう一度聞く。 <ul style="list-style-type: none">紹介文を作り発表したり、友達の紹介を聴いたりして、交流をする。友達の紹介文を聞くことで、気付いていなかった部分に注意しながら聞くようにする。	◇自分なりの価値観をもち、考えを表すために、「音楽ことば」を基に『木星』の紹介文を作ることとする。 「音楽ことば」を使って、聴いたことのない人にも分かるように、どちらかの曲の紹介文を書きましょう。 最後にもう一度、曲を聴きましょう。 ◇新たな部分にも気付けるようにするため、友達の紹介を聞いた後に、もう一度『木星』を通して聞くこととする。 ♪『木星』



要素とは



「要素」とは、〔共通事項〕に示されている、「音楽を形づくっている要素」のことであり、児童に向けては「音楽のもと」として示しました。

<音色> 	<旋律> 	<速度> 	<リズム> 
<強弱> 	<音の重なりや和声の響き> 	<音階や調> 	<フレーズ> <p>文が「」や「。」でくぎられて いるように、音楽も旋律などを小 さなまとまりにくることができます。 さいたさいたチューリップのはなが</p>
<反復>  <p>1つのせんりつやリズムなどが、繰 り返して何回かくり返したり、しばらくして また出てきたりする、音楽のしくみ。</p>	<問い合わせ>  <p>せんりつやリズムが問い合わせと それに答えているというような 部分でできている音楽のしくみ</p>	<変化> <p>変 化</p> <p>せんりつやリズムなどの形が 変わったり、速度や強弱、音色 などが変わったりすること。</p>	<縦と横の関係> <p>歌とピアノ伴奏のように せんりつと伴奏の関係</p> 



具体的な言葉については、I 授業の進め方 2 「広げる」 (2) 「音楽のもとカード」へ



常時活動

曲のようすに合う動きをしよう

決まった曲で速度、強弱、調などを変えて、曲に合った動きをしながら歌う。

『さんぽ』

「～どんどん行こう」のところまでを曲の雰囲気を変えながら歌う。前奏で雰囲気を感じ取らせ、曲に合った歩き方も考える。



♪低い音域で強く弾く



低い音でゆっくりだったから、ゆっくり、のしのし歩こう！ そうのさんぽだね

♪高い音域で速く弾く



高い音で、はねている感じだから、急いで歩いたよ！ ねずみのさんぽだね

♪音域は変えず、弱く弾く



音が弱いから、元気がなさそう…さびしいのかな

曲の感じに合ったいろいろな動きをしておくことで、体の動きで表す活動の幅が広がります。



拍子を感じ取ろう

2拍子と3拍子を曲から考えよう

手拍子とひざをたたく2拍子と3拍子のたたきかたを確認しておく。

2拍子「手、ひざ、手、ひざ」「右、左、右、左」

3拍子「手、ひざ、ひざ、手、ひざ、ひざ」「右、左、左、右、左、左」



2拍子って、行進しているみたいだね
行進する時も、1、2、1、2って言うよね



2拍子と3拍子の他には、どんな拍子があるのかな

この前歌った曲は、何拍子になるんだろう

○○行進曲や○○ワルツが感じ取りやすいですが、歌唱教材を歌いながらでもできます。

ホルスト作曲『火星』は5拍子が出てきます。



音程と強弱を聴き取ろう

『きらきら星』



雰囲気が変わったところで手を挙げてね。

「ドドソソララソー」(ふつうに)

「ファファミミレレドー」(とても強く)



強くなつた

「ドドソソララソー」(ふつうに)

「ファファミミレレドー」(高い音程で)



高くなつた

音域が高いことと、音量が強いことが混ざってしまう場合には、ピアノの音で、音域が高い音と、音域が低い音を確認します。



長調、短調を聴き取ろう

「ドドソソララソー ファファミミレレドー」(長調)



『きらきら星』だ

「ドドソソ[♭]ラ[♭]ラソー ファファ[♭]ミ[♭]ミレレドー」(短調)



悲しい『きらきら星』になった

光り方が弱い感じがする

「ソミミー ファレレー ドレミファソソソー」(長調)



『ちょうどよ』だ

「ソ[♭]ミ[♭]ミー ファレレー ドレ[♭]ミファソソソー」(短調)



元気がない『ちょうどよ』だ

仲間がいなくてさびしいのかな

「長調」は明るい感じ、「短調」は暗い感じ、と感覚的にとらえておくことで、ほかの曲を聴いた時に、暗い感じだから、短調なのかな…とつなげることができます。



楽器の音色を聴き取ろう



どちらの楽器でしょうか？

- 「トランペットとホルン」
- 「バイオリンとチェロ」
- 「タンバリンとトライアングル」
- 「木琴と鉄琴」



音色が近いものを比べます。
同じ曲での演奏だと、より比較しやすいです。



トランペットの音が聴こえたら手を挙げてね。

1曲の中から、ある音色を聴き取ります。
音色を聴き取りやすい曲を選びます。



オーケストラの演奏と吹奏楽の演奏のどちらでしょうか？

詳細は、II 授業の進め方 3 高学年へ

同じ曲で比較すると分かりやすいので、吹奏楽の曲から見付けるとよいです。



楽器をフラッシュカードにして、楽器名と楽器の形を繰り返し覚える方法も有効です。

はげしい感じ

楽しい感じ

行進している感じ

明るい感じ

元気な感じ

はずんでいる感じ

とびはねている感じ

なめらかな感じ

うるさい感じ

笑っている感じ

力強い感じ

静かな感じ

運動会のような感じ

波のような感じ

おだやかな感じ

うれしそうな感じ

盛り上がる感じ

流れる感じ

落ち着いた感じ

やさしい感じ

ひびく感じ

きれいな感じ

「がんばろう」と思う感じ

ねむくなる感じ

お花畠にいる感じ

おどりたくなる感じ

どうどうとしている感じ

おどっている感じ

はぐりよくがある感じ

わくわくする感じ

ウキウキする感じ

スキップしている感じ

ディズニーにいる感じ

遊園地にいる感じ

歌っている感じ

パニックになる感じ

お祭りに来ている感じ

働いている感じ

歩いている感じ

せんさいな感じ

リズムが強い

リズムが弱い

リズムがなめらか

タンギングしていた

強く演奏している

テンポが同じ(一定)

リズムが同じ(一定)

弱く演奏している

やさしく演奏している

リズムが止まつたり動いたりする

テンポが速い

テンポが遅い

楽器の音が高い

きれいな音

強くなったり弱くなったりする

スタッカートで演奏している

テンポ・リズムがずれない

だんだん速くなる

だんだん遅くなる

楽器の音が低い

急に強くなる

急に弱くなる

色々な楽器が一緒に演奏している

弦楽器がたくさんひいている

クレッシェンドしている

デクレッションドしている

休みなく演奏している

やさしく演奏している

音がつながっている

強弱をつけていない

強弱をつけている

いくつかの部分に分かれている

同じ楽器で演奏している

静かに演奏している

響きがある

大勢で演奏している

豊かな音を出している

金管楽器が響いている

木管楽器が響いている

弦楽器が響いている

打楽器がたくさん鳴っている

強弱がはげしい

音色がきれい

弦楽器を使っている

力を抜いて演奏している

音のバランスがいい

スタッカートがよくきいている

スラーで演奏している

中心部分で音色が変わった

シンバルが急に聞こえたから

リズムが強い

リズムが弱い

リズムがなめらか

タンギングしていた

強く演奏している

テンポが同じ(一定)

リズムが同じ(一定)

弱く演奏している

やさしく演奏している

リズムが止まつたり動いたりする

テンポが速い

テンポが遅い

楽器の音が高い

きれいな音

強くなったり弱くなったりする

スタッカートで演奏している

テンポ・リズムがずれない

だんだん速くなる

だんだん遅くなる

楽器の音が低い

急に強くなる

急に弱くなる

色々な楽器が一緒に演奏している

弦楽器がたくさんひいている

クレッシェンドしている

デクレッションドしている

休みなく演奏している

やさしく演奏している

音がつながっている

強弱をつけていない

強弱をつけている

いくつかの部分に分かれている

同じ楽器で演奏している

静かに演奏している

響きがある

大勢で演奏している

豊かな音を出している

金管楽器が響いている

木管楽器が響いている

弦楽器が響いている

打楽器がたくさん鳴っている

強弱がはげしい

音色がきれい

弦楽器を使っている

力を抜いて演奏している

音のバランスがいい

スタッカートがよくきいている

スラーで演奏している

中心部分で音色が変わった

シンバルが急に聞こえたから

音がなめらか

音が重なり合っている

楽器が変わった

一齊に響いている

初めの部分にもどった

アクセントがついている

スラーがかかった

リズムがドンドンしている

リズムがはずんでいる

一斉に強くなつた

途中で弱くなつた

打楽器がはずんでいる

音がそろっている

一斉に弱くなつた

4拍子だった

楽器が目立った

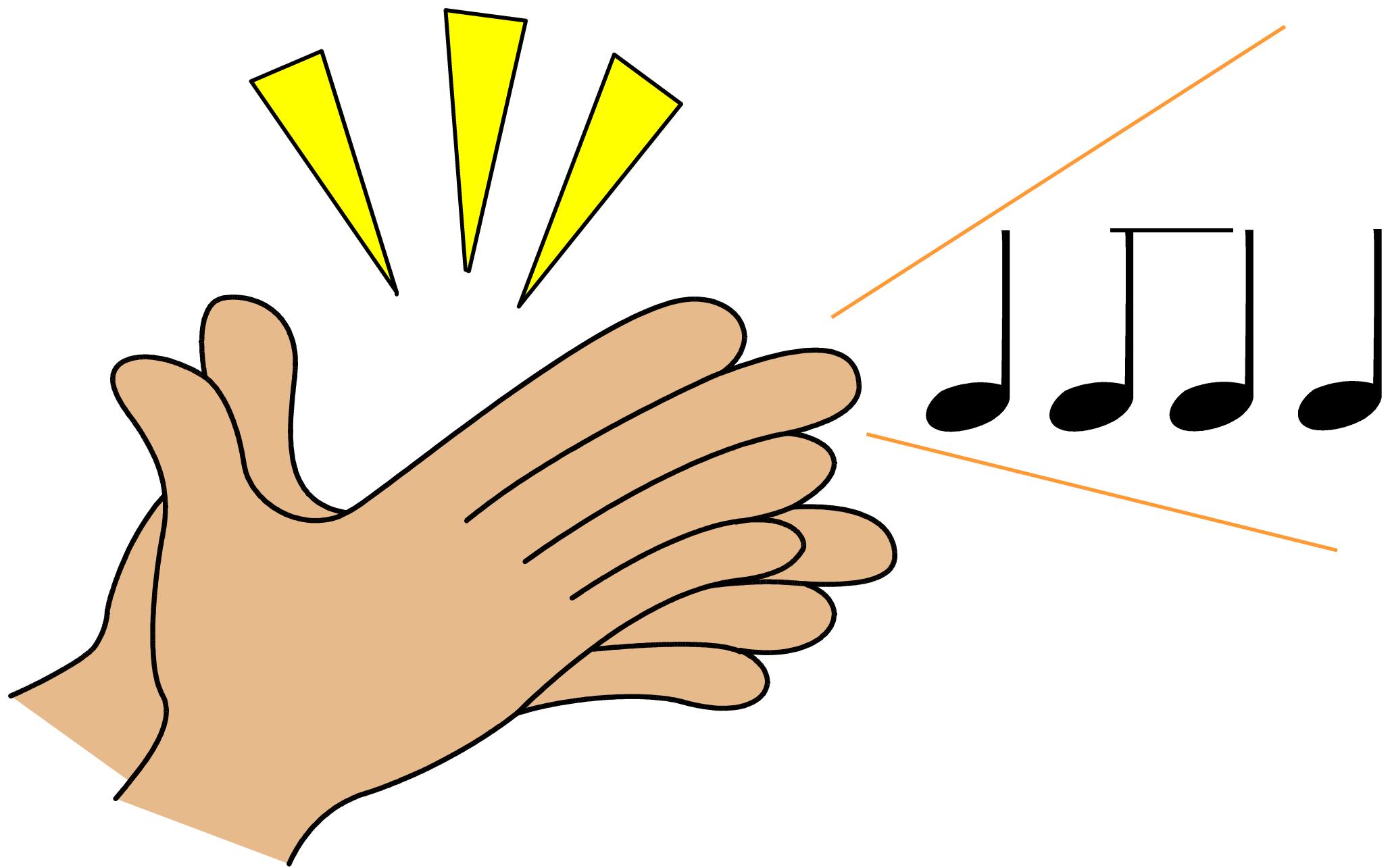
途中で速くなつた

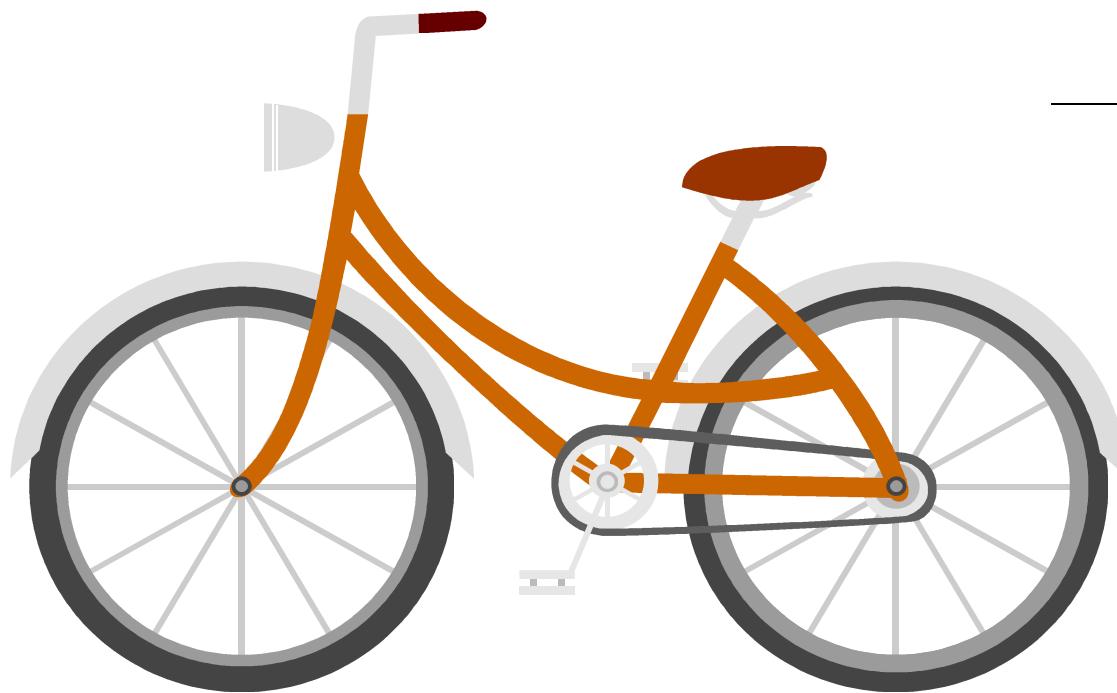
途中で遅くなつた

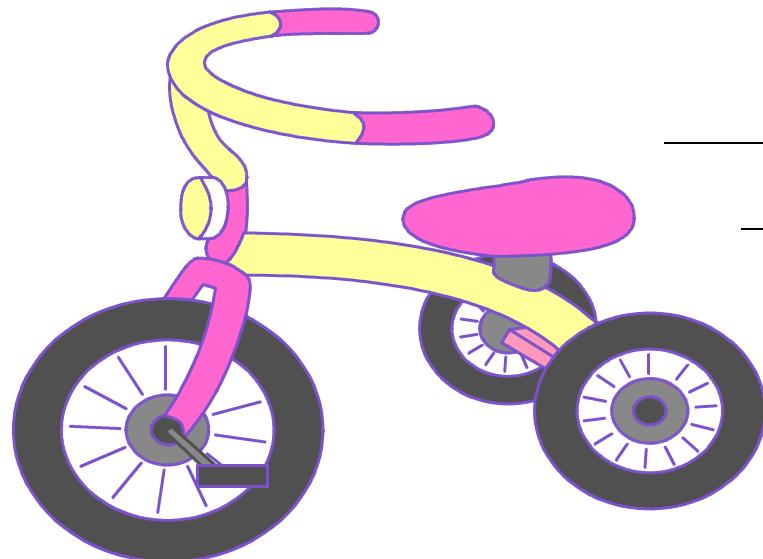
高くなつたり低くなつたりする

速くなつたり遅くなつたりする



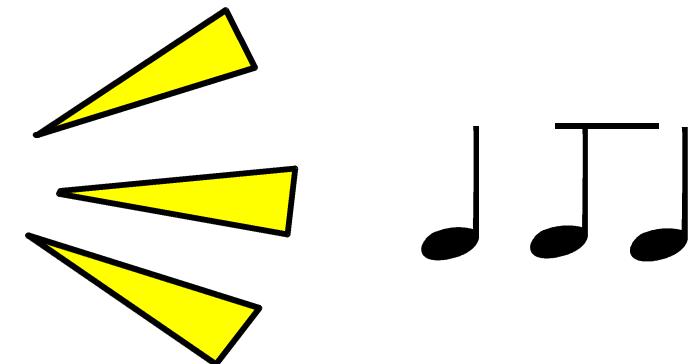
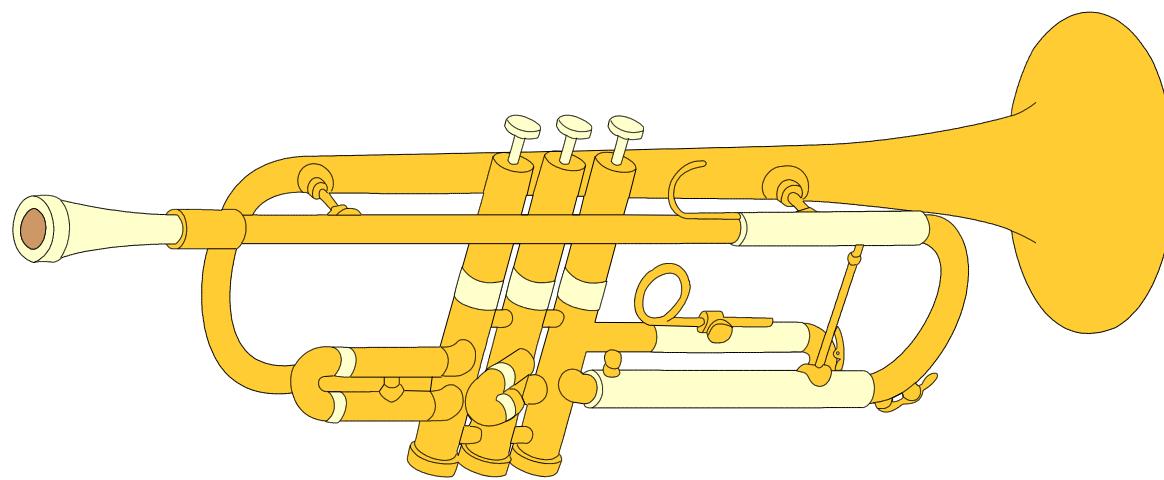
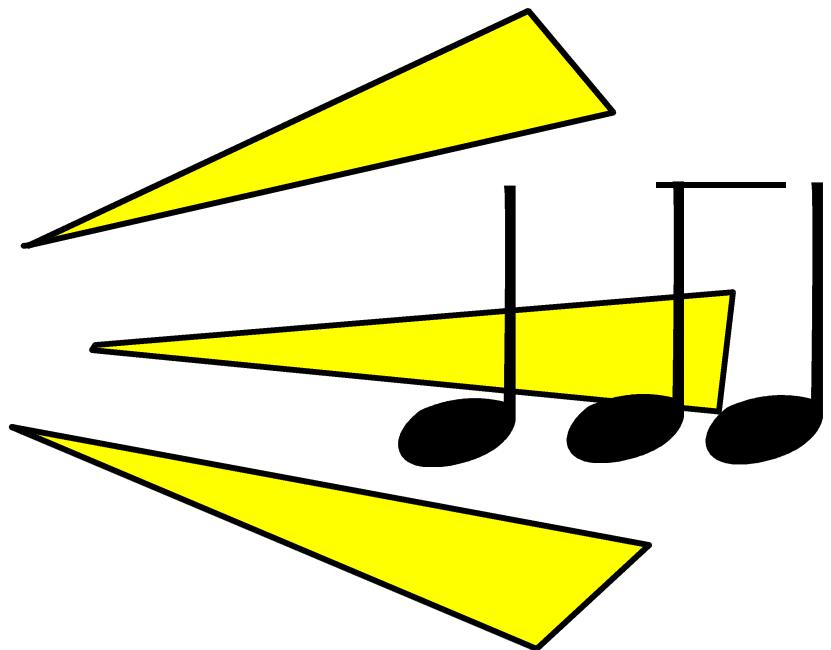
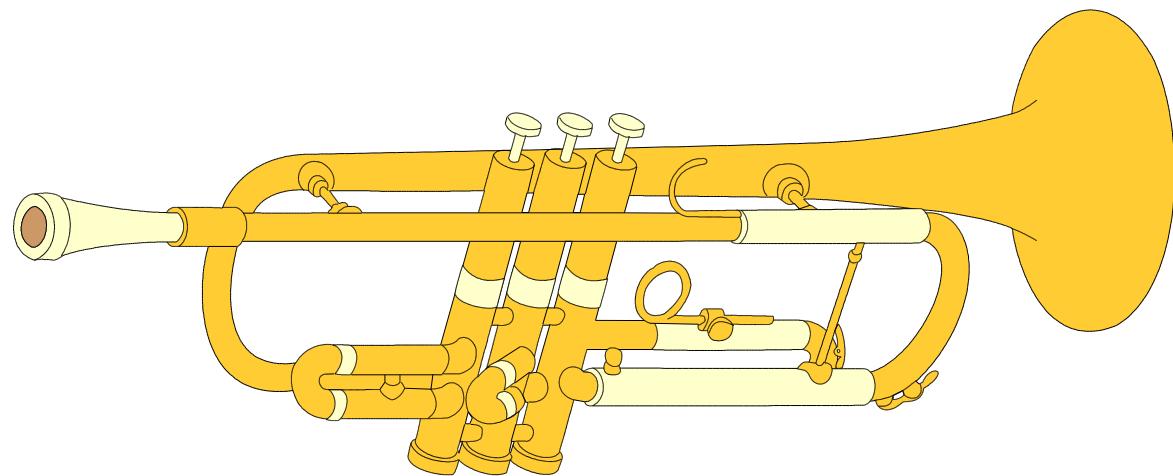


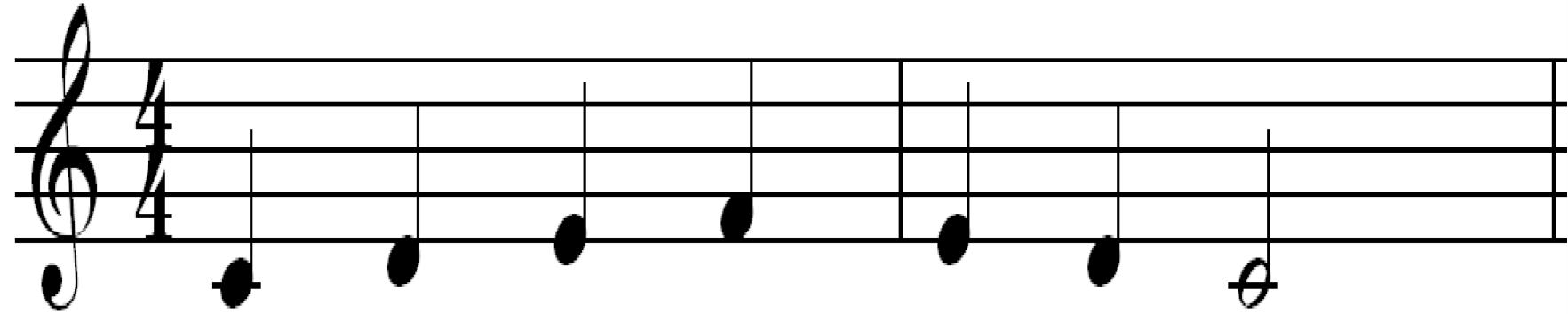




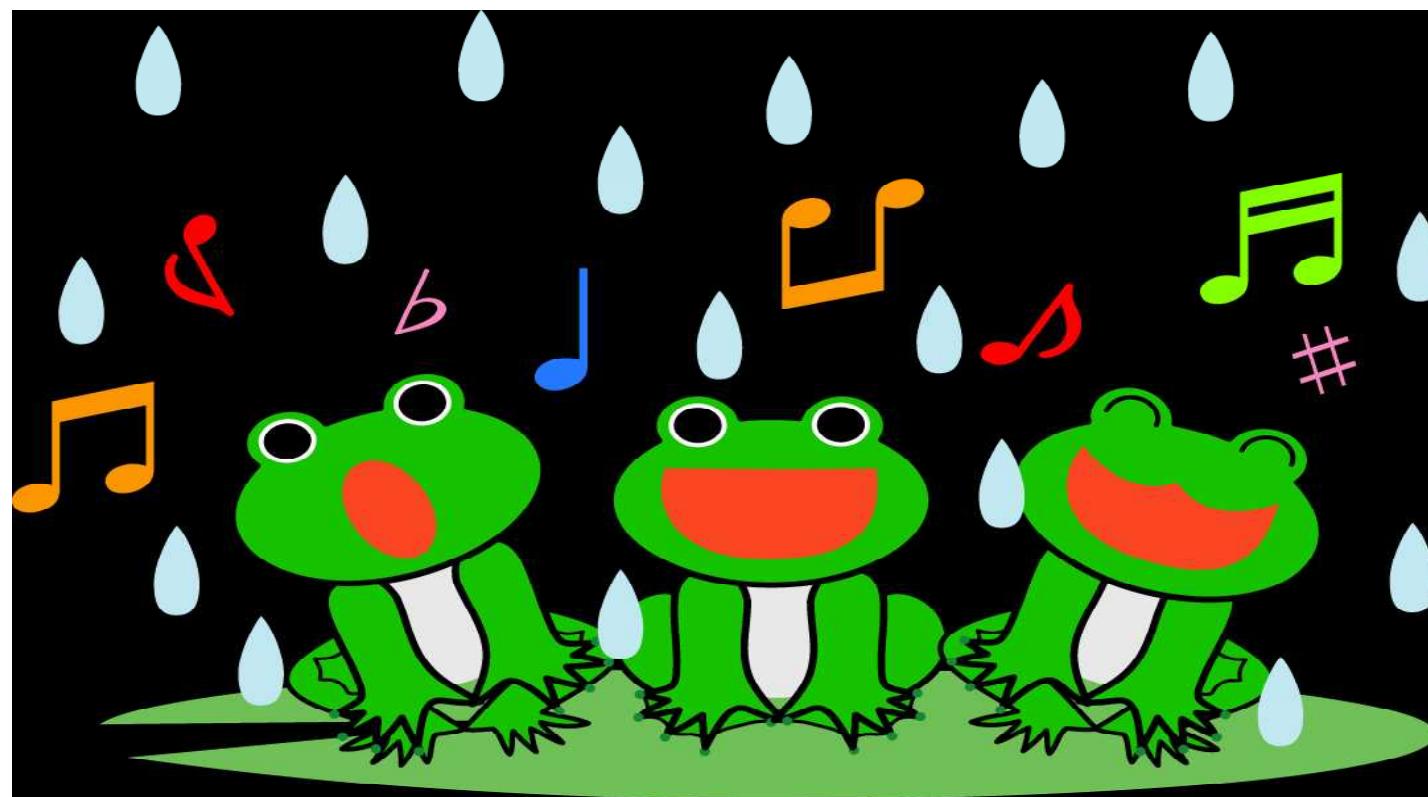
心ぞうの動きのように、
音楽には、拍が流れています。



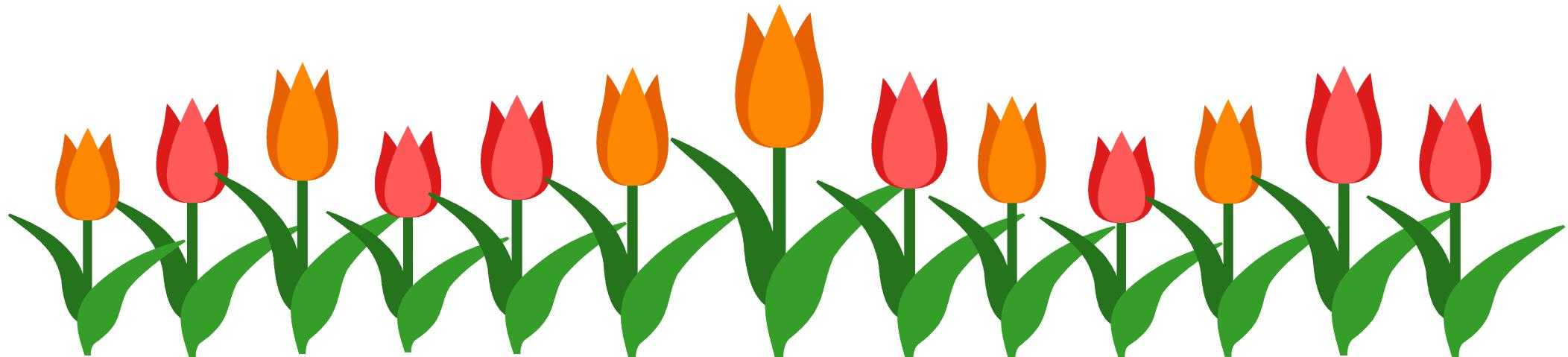




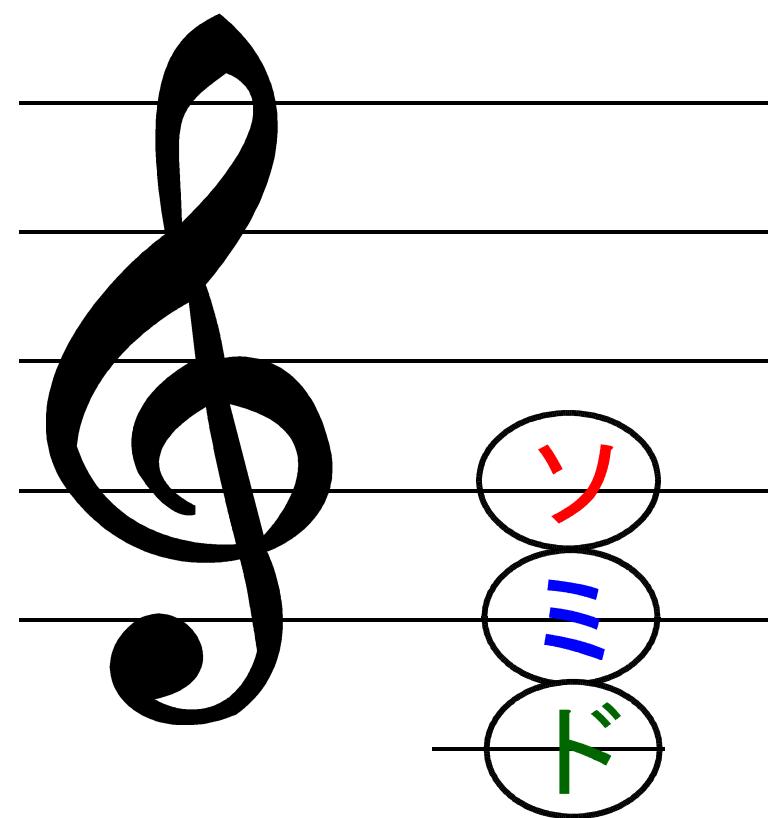
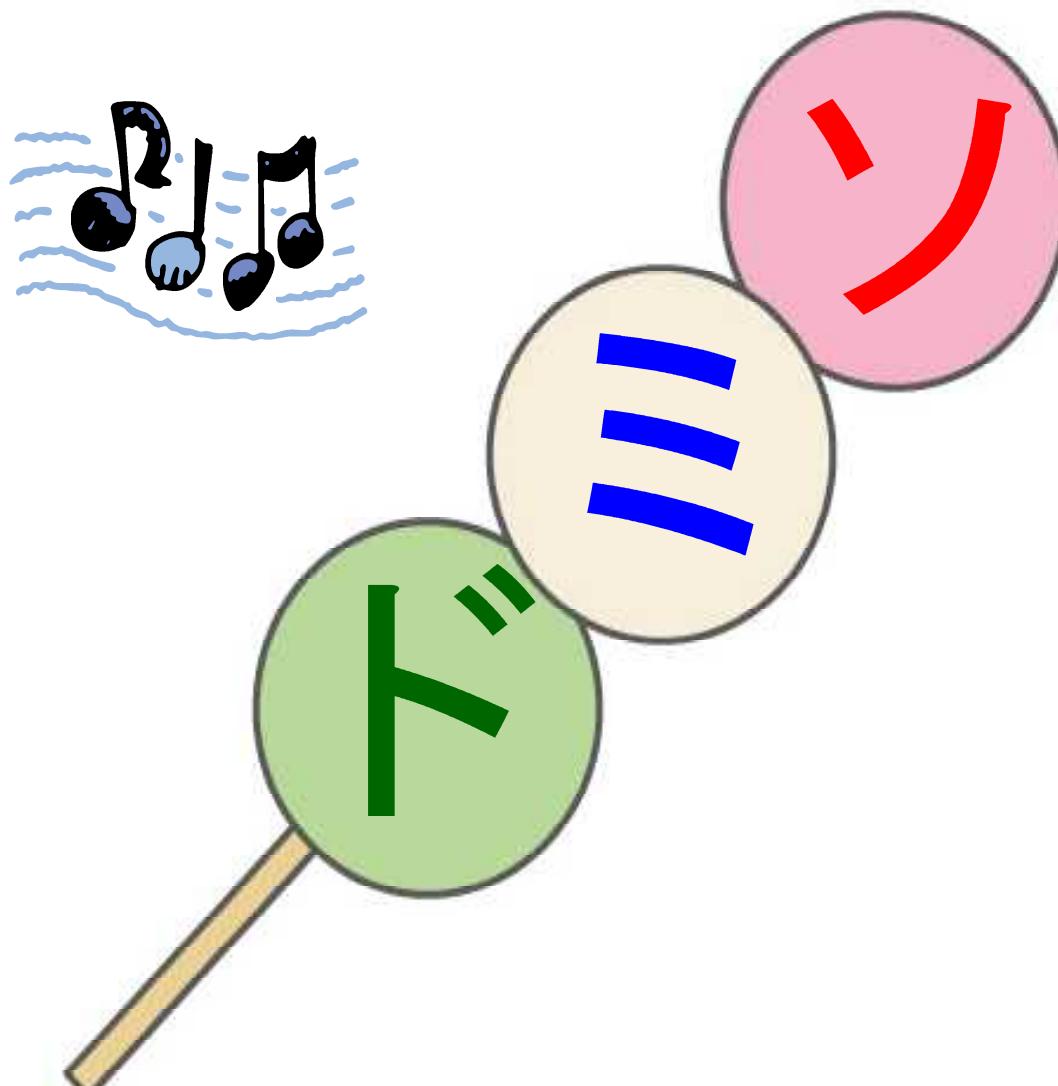
ド レ ミ フア ミ レ ド



文が「、」や「。」でくぎられて
いるように、音楽も旋律などを小さ
なまとまりにくぎることができます。

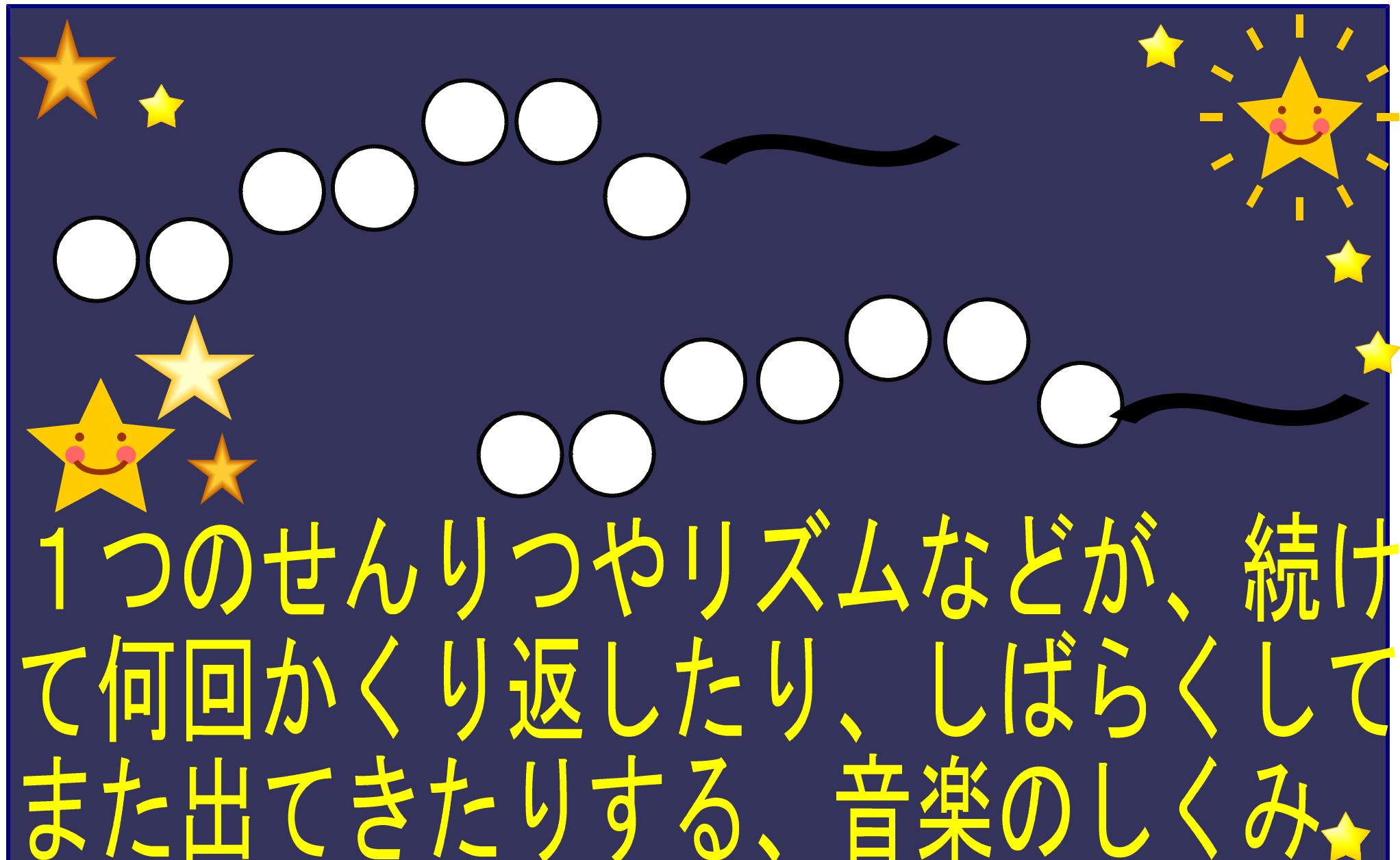


さいたさいた チューリップのはなが



変化

せんりつやリズムなどの形が
変わったり、速度や強弱、音色
などが変わったりすること。



1つのせんりつやリズムなどが、続けて何回かくり返したり、しばらくしてまた出てきたりする、音楽のしくみ★

せんりつやリズムが問い合わせと
それに答えているというような
部分でできている音楽のしくみ



歌とピアノ伴奏のように せんりつと伴奏の関係



